

## 公用文に関連する「国語に関する世論調査」の結果について

### 平成 20 年度

16. インターネットの利用頻度…………… 1

### 平成 22 年度

11. 日常生活で見掛ける言葉か…………… 8
12. 官公庁などの文書で使用する言葉としてのふさわしさ…………… 11
13. 官公庁などの文書で読むことがあるもの…………… 14
14. 公共施設名や事業名に外来語を使うことに対する考え…………… 19
15. 官公庁の広報やパンフレットなどで使用する外来語についての考え…………… 22
16. 公用文や教科書に用いる句読点についての考え…………… 25

### 平成 28 年度

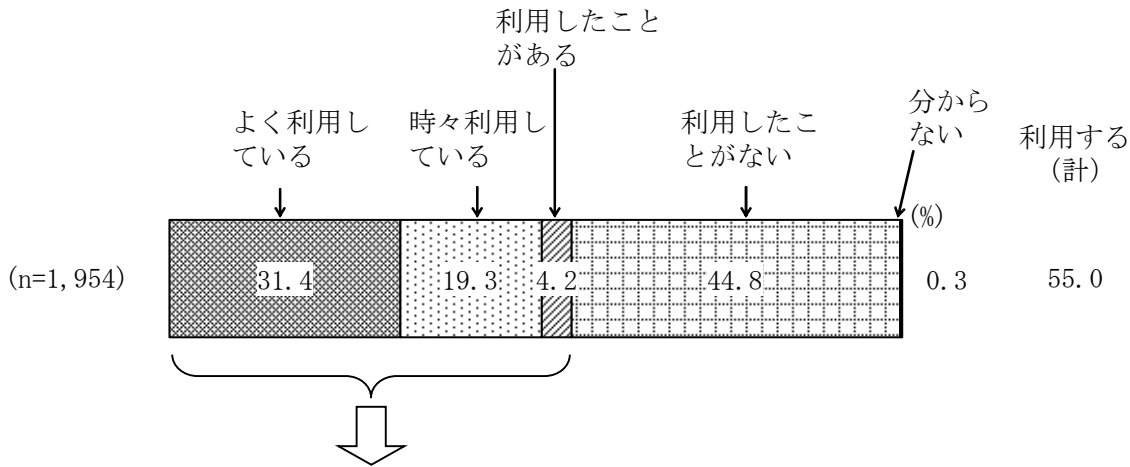
21. 国や自治体が発信した情報を得るための媒体…………… 27
22. 国や自治体が情報を発信する際に配慮してほしいこと…………… 29

### 平成 29 年度

4. 横書きの場合の句読点の使い方…………… 35
5. 句読点等の使い方に関して困っていること…………… 37
6. 符号の使い方についての考え…………… 40
7. 官公庁などの文書で読むことがあるもの…………… 42
8. 公用文や教科書に用いる句読点についての考え…………… 47
9. 表記の仕方が異なる場合があることを知っているか…………… 50
10. どちらの書き方が良いと思うか…………… 52

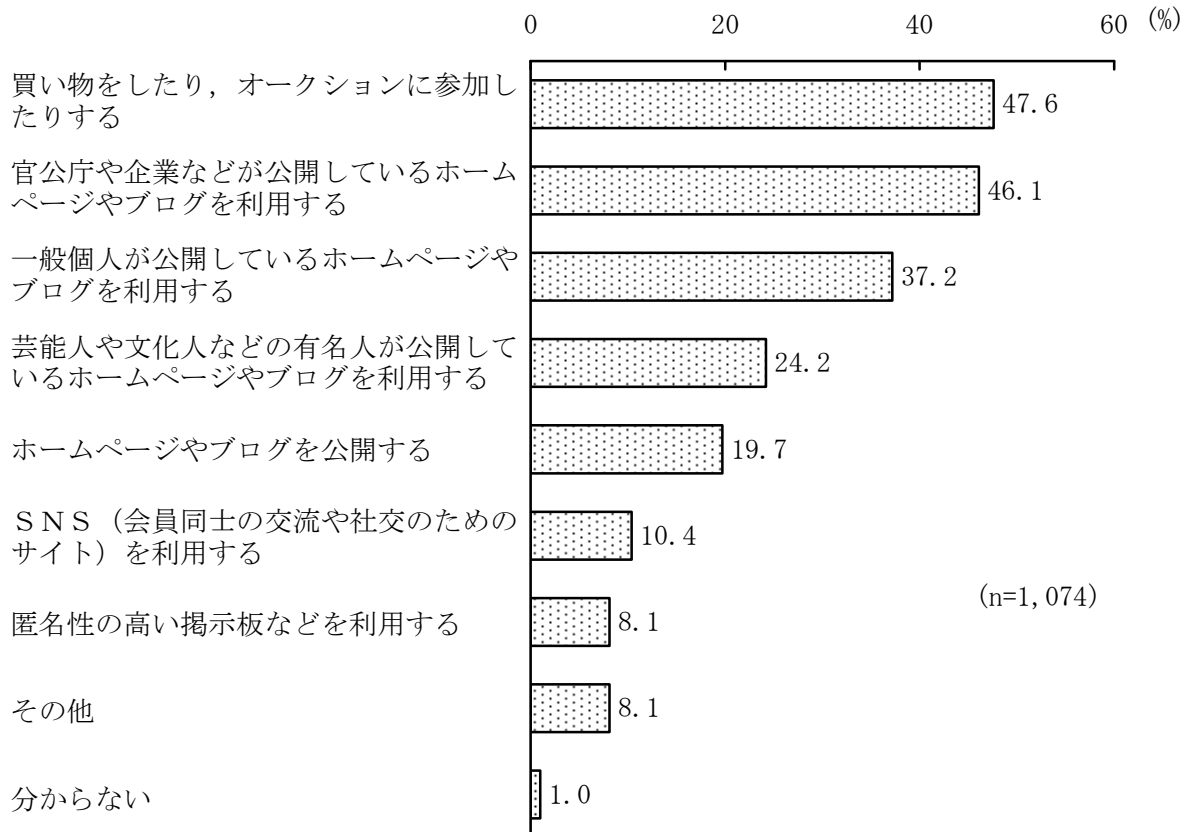
16. インターネットの利用頻度

問 16 [回答票] あなたは、パソコンや携帯電話などを通して、メール以外に、インターネットを利用することがありますか。この中から一つ選んでください。



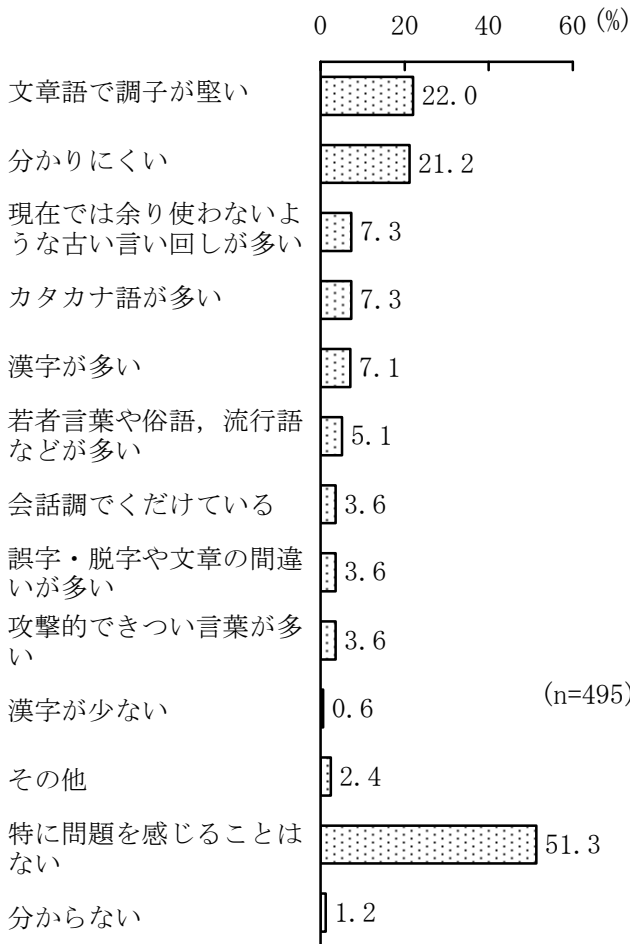
(「よく利用している」「時々利用している」「利用したことがある」と答えた人に)

付問 1 [回答票] あなたは、どのようにインターネットを利用しますか。この中から当てはまるものがあればすべて挙げてください。



(付問1で「官公庁や企業等のホームページやブログを利用する」と答えた人に)

付問2〔回答票〕では、官公庁や企業などが公開しているホームページやブログでの言葉の使い方について、問題を感じることはありませんか。この中から当てはまるものがあればすべて挙げてください。



(付問1で「匿名性の高い掲示板などを利用する」と答えた人に)

付問3〔回答票〕では、インターネット上の匿名性の高い掲示板の書き込みなどでの言葉の使い方について、問題を感じることはありませんか。この中から当てはまるものがあればすべて挙げてください。

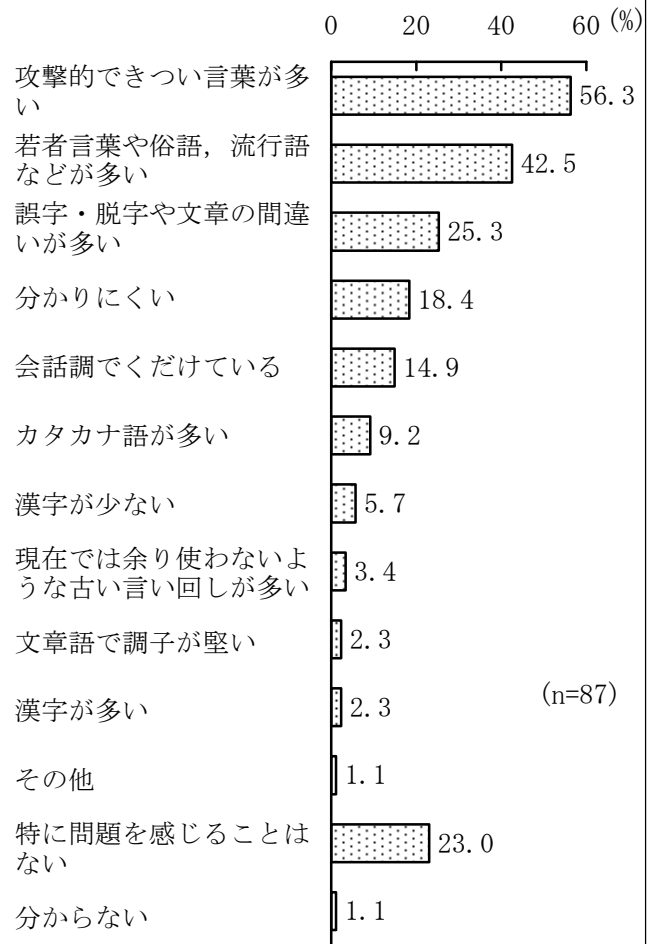
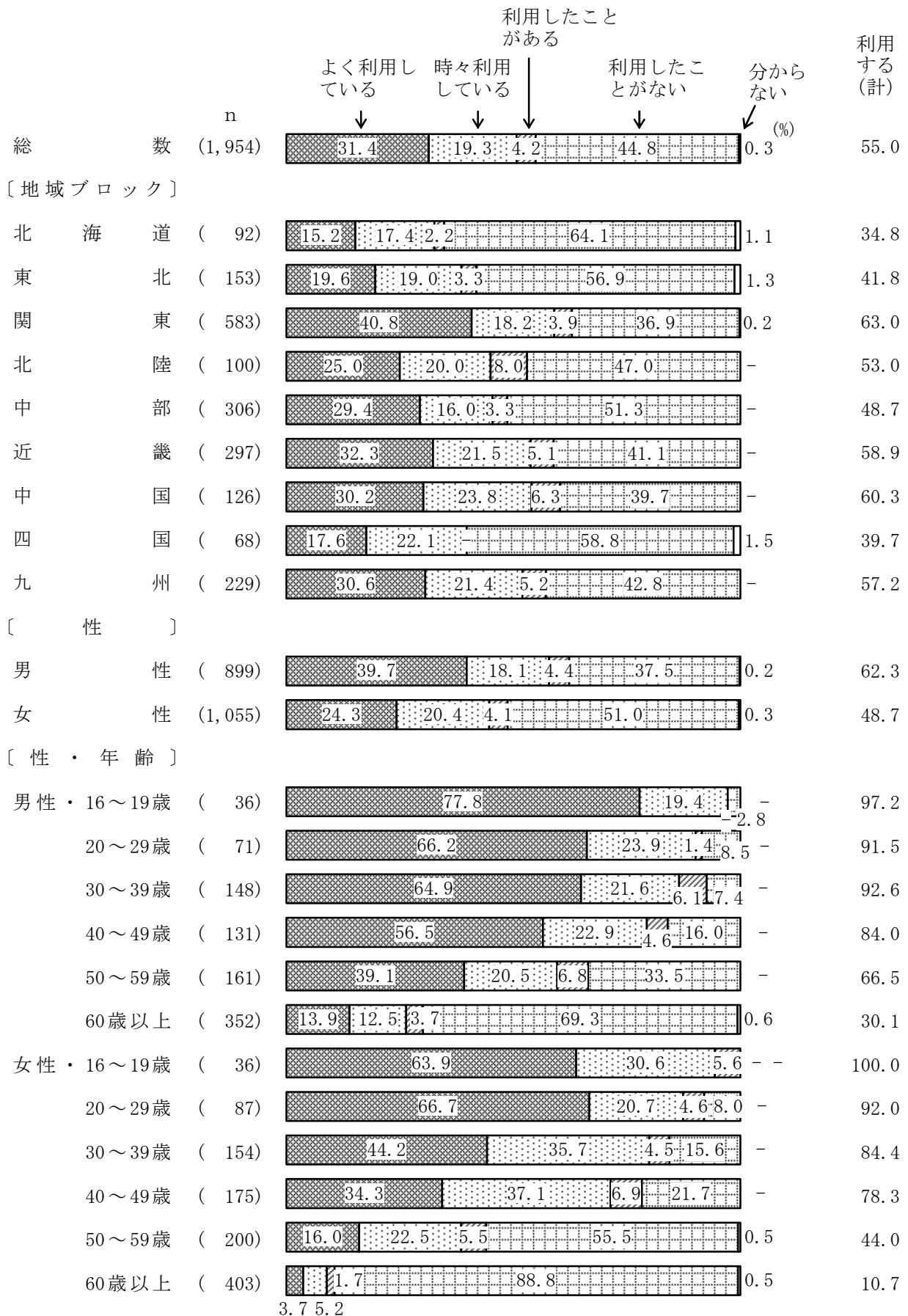


図 14 インターネットの利用頻度（地域ブロック別，性別，性・年齢別）



## インターネットの利用の仕方

インターネットを「よく利用している」「時々利用している」「利用したことがある」と答えた人（全体の55.0%）に、どのように利用するかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「買い物をしたり、オークションに参加したりする」（47.6%）、「官公庁や企業等のホームページやブログを利用する」（46.1%）が4割台となっている。以下、「一般個人のホームページやブログを利用する」（37.2%）、「芸能人や文化人等のホームページやブログを利用する」（24.2%）、「ホームページやブログを公開する」（19.7%）、「SNSを利用する」（10.4%）、「匿名性の高い掲示板などを利用する」（8.1%）となっている。

地域ブロック別に見ると、「買い物をしたり、オークションに参加したりする」の割合は中国（57.9%）、北海道（56.3%）、九州（55.0%）、東北（53.1%）、「官公庁や企業などが公開しているホームページやブログを利用する」の割合は近畿（53.7%）、九州（51.1%）、北海道（50.0%）で、それぞれ5割台と他の地域ブロックに比べ高くなっている。また、「一般個人が公開しているホームページやブログを利用する」の割合は、四国（59.3%）で6割近くと高くなっている。

性別に見ると、「官公庁や企業などが公開しているホームページやブログを利用する」（男性51.1%、女性40.7%）、「一般個人が公開しているホームページやブログを利用する」（男性40.0%、女性34.2%）、「匿名性の高い掲示板などを利用する」（男性10.7%、女性5.3%）は男性の方が高い。

性・年齢別に見ると、「買い物をしたり、オークションに参加したりする」の割合は男女共に30代で6割前後と高くなっている。「官公庁や企業などが公開しているホームページやブログを利用する」の割合は男性の40代以上で5割台後半から6割台半ばと高くなっている。また、「一般個人が公開しているホームページやブログを利用する」、「芸能人や文化人などの有名人が公開しているホームページやブログを利用する」、「ホームページやブログを公開する」、「匿名性の高い掲示板などを利用する」の割合は、男女共に年代が下がるほど高くなる傾向が見られ、いずれの項目も16～19歳で最も高くなっている（表18参照）。

表 18 インターネットの利用の仕方（地域ブロック別，性別，性・年齢別）

(%)

	n	買い物をしたり，オークションに参加したりする	官公庁や企業などが公開しているホームページやブログを利用する	一般個人が公開しているホームページやブログを利用する	芸能人や文化人などの有名人が公開しているホームページやブログを利用する	ホームページやブログを公開する	SNS（会員同士の交流や社交のためのサイト）を利用する	匿名性の高い掲示板などを利用する
総数	1,074	47.6	46.1	37.2	24.2	19.7	10.4	8.1
[地域ブロック]								
北海道	32	56.3	50.0	28.1	25.0	28.1	12.5	6.3
東北	64	53.1	43.8	40.6	28.1	20.3	10.9	4.7
関東	367	43.9	45.2	40.6	23.2	21.8	12.5	8.2
北陸	53	49.1	47.2	20.8	30.2	20.8	3.8	5.7
中部	149	46.3	40.3	36.9	19.5	20.8	9.4	8.1
近畿	175	42.3	53.7	37.7	28.0	17.1	9.1	10.9
中国	76	57.9	46.1	40.8	25.0	15.8	10.5	5.3
四国	27	48.1	14.8	59.3	22.2	7.4	7.4	7.4
九州	131	55.0	51.1	28.2	22.9	18.3	9.9	9.2
[性]								
男性	560	46.6	51.1	40.0	22.1	18.4	10.2	10.7
女性	514	48.6	40.7	34.2	26.5	21.2	10.7	5.3
[性・年齢]								
男性・16～19歳	35	40.0	20.0	65.7	40.0	28.6	14.3	22.9
20～29歳	65	47.7	32.3	50.8	24.6	23.1	24.6	16.9
30～39歳	137	57.7	46.0	48.9	31.4	19.7	10.9	13.1
40～49歳	110	46.4	57.3	45.5	27.3	18.2	8.2	14.5
50～59歳	107	45.8	64.5	26.2	10.3	14.0	6.5	4.7
60歳以上	106	34.9	59.4	21.7	9.4	15.1	4.7	1.9
女性・16～19歳	36	22.2	11.1	69.4	58.3	52.8	13.9	13.9
20～29歳	80	46.3	32.5	47.5	37.5	26.3	16.3	8.8
30～39歳	130	60.8	37.7	36.9	24.6	20.0	13.8	6.2
40～49歳	137	48.9	51.8	24.1	21.9	19.0	8.0	1.5
50～59歳	88	43.2	50.0	25.0	18.2	15.9	5.7	4.5
60歳以上	43	48.8	34.9	23.3	16.3	7.0	7.0	2.3

## 官公庁や企業等のホームページでの言葉遣いの問題点

「官公庁や企業等のホームページやブログを利用する」と答えた人（全体の46.1%）に、官公庁や企業などが公開しているホームページやブログでの言葉の使い方について、問題を感じるかどうかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「特に問題を感じることはない」（51.3%）と回答した人の割合が5割を超え最も高い。

問題を感じる必要があるとして選択されたものを見ると、「文章語で調子が堅い」（22.0%）、「分かりにくい」（21.2%）が2割台となっている。以下、「現在では余り使わないような古い言い回しが多い」（7.3%）、「カタカナ語が多い」（7.3%）、「漢字が多い」（7.1%）、「若者言葉や俗語、流行語などが多い」（5.1%）、「会話調でくだけている」（3.6%）、「誤字・脱字や文章の間違が多い」（3.6%）、「攻撃的できつい言葉が多い」（3.6%）、「漢字が少ない」（0.6%）となっている。

地域ブロック別に見ると、ほとんどの地域ブロックで「文章語で調子が堅い」や「分かりにくい」を問題点として挙げた人の割合が高い。

性別に見ると、「分かりにくい」（男性24.5%、女性16.7%）は男性の方が高く、「特に問題を感じることはない」（男性47.2%、女性56.9%）は女性の方が高い。

性・年齢別に見ると、「分かりにくい」の割合は男性の50代で約3割と他の年代に比べ高くなっている（表19参照）。

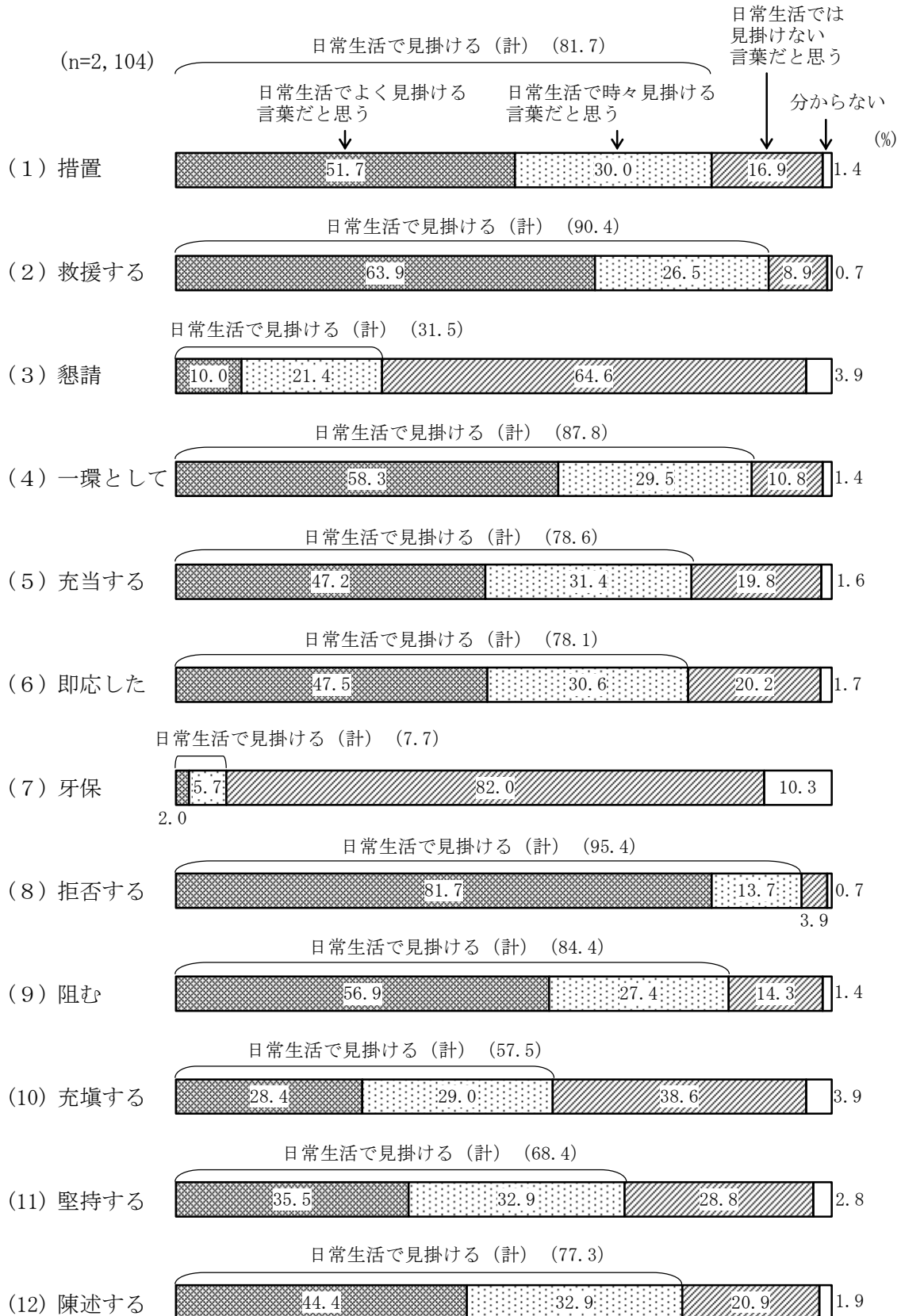
表19 官公庁や企業等のホームページでの言葉遣いの問題点（地域ブロック別、性別、性・年齢別）

		(%)										
n	文章語で調子が堅い	分かりにくい	現在では余り使わない古い言い回しが多い	カタカナ語が多い	漢字が多い	若者言葉や俗語、流行語などが多い	会話調でくだけている	誤字・脱字や文章の違いが多い	攻撃的できつい言葉が多い	漢字が少くない	特に問題を感じることはない	
総数	495	21.2	7.3	7.3	7.1	5.1	3.6	3.6	3.6	0.6	51.3	
[地域ブロック]												
北海道	16	25.0	-	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	-	62.5	
東北	28	14.3	10.7	7.1	7.1	7.1	3.6	3.6	3.6	-	50.0	
関東	166	24.1	10.2	9.0	6.0	9.6	6.6	6.6	5.4	1.2	44.0	
北陸	25	12.0	4.0	8.0	12.0	4.0	12.0	4.0	4.0	-	52.0	
中部	60	15.0	5.0	5.0	3.3	-	-	-	3.3	-	60.0	
近畿	94	24.5	9.6	7.4	9.6	2.1	2.1	4.3	3.2	1.1	48.9	
中国	35	20.0	28.6	-	5.7	-	2.9	2.9	-	-	57.1	
四国	4	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	
九州	67	17.9	16.4	3.0	6.0	3.0	-	1.5	1.5	-	61.2	
[性別]												
男性	286	24.5	7.7	9.1	7.7	5.2	4.2	3.8	3.1	0.7	47.2	
女性	209	16.7	6.7	4.8	6.2	4.8	2.9	3.3	4.3	0.5	56.9	
[性・年齢]												
男性・16～19歳	7	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	71.4	
20～29歳	21	23.8	28.6	4.8	14.3	-	-	4.8	-	-	42.9	
30～39歳	63	28.6	20.6	6.3	4.8	7.9	3.2	3.2	6.3	-	49.2	
40～49歳	63	15.9	22.2	4.8	7.9	4.8	3.2	4.8	3.2	-	55.6	
50～59歳	69	24.6	30.4	10.1	14.5	2.9	5.8	2.9	2.9	-	40.6	
60歳以上	63	25.4	23.8	11.1	12.7	7.9	6.3	4.8	1.6	3.2	42.9	
女性・16～19歳	4	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
20～29歳	26	15.4	7.7	7.7	11.5	11.5	3.8	7.7	7.7	-	61.5	
30～39歳	49	22.4	22.4	2.0	4.1	6.1	6.1	4.1	2.0	-	49.0	
40～49歳	71	18.3	16.9	7.0	5.6	4.2	1.4	1.4	2.8	-	62.0	
50～59歳	44	22.7	15.9	11.4	6.8	2.3	2.3	4.5	4.5	2.3	59.1	
60歳以上	15	20.0	20.0	6.7	20.0	6.7	-	-	13.3	-	46.7	



11. 日常生活で見掛ける言葉か

問 11 [回答票] あなたは、次に挙げる(1)～(12)の言葉について、どのように感じますか。  
この中から一つ選んでください。



12の言葉を挙げて、日常生活で見掛けるかどうかを尋ねた。

12語の中で、「日常生活でよく見掛ける言葉だと思う」「日常生活で時々見掛ける言葉だと思う」を合わせた「日常生活で見掛ける(計)」の割合が高かったのは、「拒否する」(95.4%)、「救援する」(90.4%)で、共に9割台となっている。続いて、「一環として」(87.8%)、「阻む」(84.4%)、「措置」(81.7%)が8割台、「充当する」(78.6%)、「即応した」(78.1%)、「陳述する」(77.3%)が7割台となっている。以下、「堅持する」(68.4%)、「充填する」(57.5%)も半数を超えている。一方、「牙保」(7.7%)は1割未満、「懇請」(31.5%)は3割強となり、これらの言葉は「日常生活では見掛けない言葉だと思う」の割合がそれぞれ82.0%、64.6%と「日常生活で見掛ける(計)」の割合を上回っている。また、「日常生活で見掛ける(計)」の割合が共に9割台であった「拒否する」「救援する」について、「日常生活でよく見掛ける言葉だと思う」の割合を見ると、「拒否する」(81.7%)は8割強であるのに対し、「救援する」(63.9%)は6割強と18ポイントの差が見られる。

性別に見ると、「日常生活で見掛ける(計)」の割合は、「措置」(男性84.7%、女性79.2%)、「即応した」(男性80.6%、女性76.0%)、「充填する」(男性66.1%、女性50.1%)、「堅持する」(男性76.9%、女性61.3%)で、男性の方が高くなっている。これらの男女差は、「日常生活で見掛ける(計)」のうち、「日常生活でよく見掛ける言葉だと思う」の割合の差によるものである。また、「救援する」「阻む」については、「日常生活で見掛ける(計)」の割合に余り差は見られないが、「日常生活でよく見掛ける言葉だと思う」の割合が男性で高くなっている。一方、「拒否する」については「日常生活で見掛ける(計)」の割合に余り差は見られないが、「日常生活でよく見掛ける言葉だと思う」の割合は女性の方が高い。

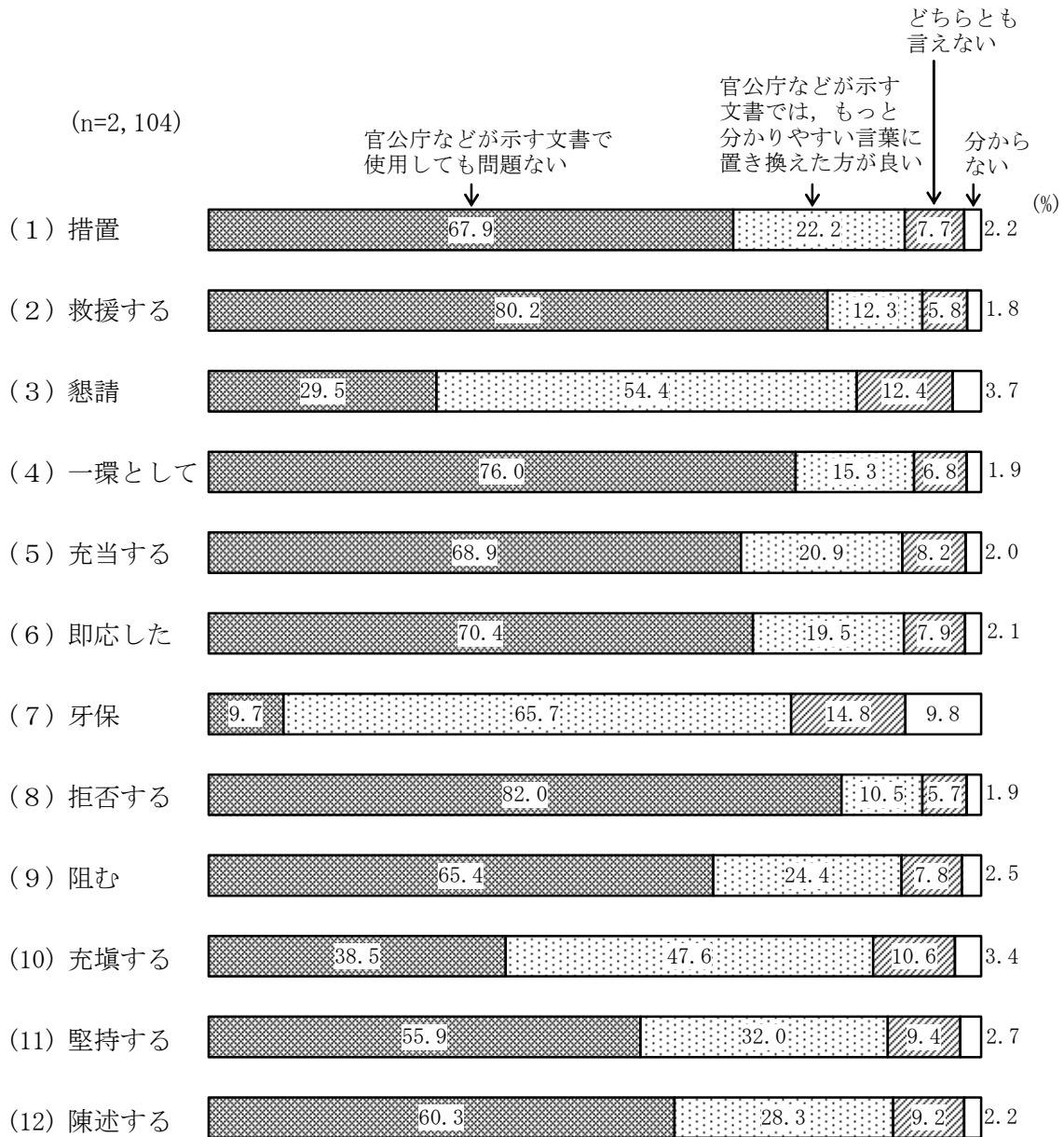
性・年齢別に見ると、「日常生活で見掛ける(計)」の割合は、「措置」「一環として」「即応した」は女性の60歳以上で、「拒否する」「阻む」は男女の60歳以上で、他の年代に比べ低くなっている。「措置」は男性の20代と女性の16~19歳、「一環として」は男性の50代と女性の40代、「阻む」は男性の16~19歳と女性の30~40代で、それぞれ他の年代より高く9割台となっている。また、「充当する」は男性の40代以上と女性の40~50代、「陳述する」は男性の40~50代と女性の30~40代で、それぞれ他の年代より高く8割台となっている(表10参照)。

表10 日常生活で見掛ける言葉か「日常生活でよく見掛ける言葉だと思ふ」比率、「日常生活で時々見掛ける言葉だと思ふ」比率、「日常生活で時々見掛ける言葉だと思ふ」比率、  
「日常生活で見掛ける(計)」比率(性別、性・年齢別)

n	(1) 措置			(2) 救援する			(3) 懇請			(4) 一環として			(5) 充当する			(6) 即応した		
	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)
総数	51.7	30.0	81.7	63.9	26.5	90.4	10.0	21.4	31.5	58.3	29.5	87.8	47.2	31.4	78.6	47.5	30.6	78.1
[性]																		
男性	55.6	29.0	84.7	66.2	24.8	91.0	11.4	21.2	32.6	57.9	30.5	88.4	49.0	31.0	80.0	50.5	30.2	80.6
女性	48.4	30.8	79.2	61.9	28.0	89.9	8.9	21.6	30.5	58.6	28.7	87.3	45.7	31.7	77.3	45.0	31.0	76.0
[性・年齢]																		
男性・16～19歳	42.2	33.3	75.6	60.0	28.9	88.9	11.1	24.4	35.6	51.1	33.3	84.4	11.1	55.6	66.7	42.2	33.3	75.6
20～29歳	54.1	37.7	91.8	59.0	31.1	90.2	4.9	24.6	29.5	65.6	24.6	90.2	23.0	47.5	70.5	34.4	49.2	83.6
30～39歳	62.3	24.6	86.9	63.1	26.9	90.0	5.4	16.2	21.5	59.2	30.8	90.0	37.7	38.5	76.2	43.1	36.9	80.0
40～49歳	61.8	26.3	88.2	70.4	23.7	94.1	6.6	22.4	28.9	65.1	27.0	92.1	48.7	35.5	84.2	50.7	30.9	81.6
50～59歳	57.8	30.3	88.1	70.3	23.8	94.1	9.7	23.2	33.0	63.8	30.8	94.6	57.8	27.6	85.4	55.1	29.2	84.3
60歳以上	51.8	29.1	80.9	65.6	23.5	89.0	17.1	20.7	37.8	51.5	32.1	83.7	57.1	23.0	80.1	54.1	24.7	78.8
女性・16～19歳	54.3	37.1	91.4	54.3	40.0	94.3	2.9	25.7	28.6	48.6	42.9	91.4	11.4	31.4	42.9	34.3	42.9	77.1
20～29歳	50.6	31.5	82.0	49.4	36.0	85.4	7.9	24.7	32.6	55.1	30.3	85.4	27.0	41.6	68.5	42.7	32.6	75.3
30～39歳	53.6	32.7	86.3	59.5	33.3	92.8	4.6	19.0	23.5	65.4	26.8	92.2	39.9	37.9	77.8	42.5	34.6	77.1
40～49歳	57.8	27.6	85.4	62.8	28.6	91.5	9.5	17.6	27.1	70.9	24.6	95.2	52.3	35.2	87.4	49.2	33.7	82.9
50～59歳	48.1	35.2	83.3	65.7	27.6	93.3	4.3	26.7	31.0	60.0	31.4	91.4	51.0	34.8	85.7	47.1	31.0	78.1
60歳以上	41.7	28.9	70.6	63.6	23.6	87.2	12.8	21.0	33.8	51.7	28.5	80.1	48.6	24.7	73.3	44.4	27.4	71.7
(%)																		
n	(7) 牙保			(8) 拒否する			(9) 阻む			(10) 充填する			(11) 堅持する			(12) 陳述する		
	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)	よく見掛ける	時々見掛ける	見掛ける(計)
総数	2.0	5.7	7.7	81.7	13.7	95.4	56.9	27.4	84.4	28.4	29.0	57.5	35.5	32.9	68.4	44.4	32.9	77.3
[性]																		
男性	2.7	6.1	8.8	79.9	15.8	95.6	60.3	25.0	85.3	35.4	30.7	66.1	44.5	32.4	76.9	46.2	31.2	77.4
女性	1.5	5.3	6.8	83.2	11.9	95.2	54.1	29.5	83.6	22.5	27.7	50.1	27.9	33.4	61.3	42.8	34.3	77.2
[性・年齢]																		
男性・16～19歳	4.4	4.4	8.9	91.1	8.9	100.0	60.0	31.1	91.1	20.0	31.1	51.1	11.1	31.1	42.2	28.9	22.2	51.1
20～29歳	-	-	-	86.9	9.8	96.7	70.5	16.4	86.9	24.6	31.1	55.7	23.0	47.5	70.5	37.7	32.8	70.5
30～39歳	0.8	3.8	4.6	83.8	13.1	96.9	60.8	27.7	88.5	34.6	31.5	66.2	33.8	36.9	70.8	45.4	31.5	76.9
40～49歳	2.6	9.2	11.8	84.9	13.8	98.7	65.1	24.3	89.5	37.5	36.2	73.7	45.4	38.2	83.6	47.4	36.2	83.6
50～59歳	1.1	7.6	8.6	82.7	14.6	97.3	63.2	25.9	89.2	43.8	30.8	74.6	51.9	33.0	84.9	49.2	33.0	82.2
60歳以上	4.3	6.1	10.5	73.0	19.6	92.6	55.4	24.5	79.8	34.4	28.1	62.5	51.3	26.3	77.6	48.0	29.1	77.0
女性・16～19歳	-	5.7	5.7	94.3	2.9	97.1	60.0	25.7	85.7	2.9	22.9	25.7	11.4	40.0	51.4	25.7	45.7	71.4
20～29歳	3.4	4.5	7.9	89.9	9.0	98.9	62.9	25.8	88.8	19.1	24.7	43.8	19.1	32.6	51.7	32.6	41.6	74.2
30～39歳	-	4.6	4.6	87.6	11.1	98.7	60.1	32.0	92.2	19.6	33.3	52.9	15.7	38.6	54.2	39.2	47.7	86.9
40～49歳	1.5	6.0	7.5	94.0	5.0	99.0	63.3	27.6	91.0	30.7	30.7	61.3	32.7	34.2	66.8	55.3	30.7	85.9
50～59歳	2.4	6.2	8.6	84.3	12.9	97.1	52.4	35.2	87.6	16.7	33.8	50.5	25.7	40.5	66.2	42.4	36.2	78.6
60歳以上	1.3	4.9	6.2	74.4	16.1	90.5	46.6	27.8	74.4	24.7	22.5	47.2	34.0	27.6	61.6	42.2	28.3	70.4

## 12. 官公庁などの文書で使用する言葉としてのふさわしさ

問 12 [回答票] では、これらの言葉を、官公庁などが示す文書で使用するについて、どのように感じますか。この中から一つ選んでください。



問11で尋ねた12の言葉を、官公庁などが示す文書で使用するについてどう感じるかを尋ねた。

12語の中で、「官公庁などが示す文書で使用しても問題ない」の割合が高かったのは、「拒否する」(82.0%)、「救援する」(80.2%)で、共に8割台となっている。続いて、「一環として」(76.0%)、「即応した」(70.4%)が7割台、「充当する」(68.9%)、「措置」(67.9%)、「阻む」(65.4%)、「陳述する」(60.3%)が6割台となっている。次いで、「堅持する」(55.9%)も半数を超えている。一方、「牙保」(9.7%)は1割未満、「懇請」(29.5%)は約3割、「充填する」(38.5%)は4割弱となり、これらの言葉は「官公庁などが示す文書では、もっと分かりやすい言葉に置き換えた方がよい」の割合がそれぞれ65.7%、54.4%、47.6%と「官公庁などが示す文書で使用しても問題ない」の割合を上回っている。

また、問 11 で尋ねた「日常生活で見掛ける（計）」の割合と比較すると、「日常生活で見掛ける（計）」の割合が高い語ほど「官公庁などが示す文書で使用しても問題ない」と答えた人の割合も高くなる傾向が見られる（P47 参照）。

性別に見ると、「官公庁などが示す文書で使用しても問題ない」の割合は、「措置」（男性 70.1%，女性 66.0%）、「阻む」（男性 69.3%，女性 62.0%）、「充填する」（男性 46.1%，女性 32.0%）、「堅持する」（男性 64.5%，女性 48.6%）で、男性の方が高くなっている。一方、「官公庁などが示す文書では、もっと分かりやすい言葉に置き換えた方が良い」の割合は、「阻む」（男性 21.6%，女性 26.8%）、「充填する」（男性 42.1%，女性 52.3%）、「堅持する」（男性 26.2%，女性 37.0%）で、女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「官公庁などが示す文書で使用しても問題ない」の割合は、「措置」「救援する」「一環として」「即応した」「拒否する」「阻む」は男女の 60 歳以上で他の年代に比べ低く、「官公庁などが示す文書では、もっと分かりやすい言葉に置き換えた方が良い」の割合が他の年代に比べ高くなっている（表 11 参照）。

表 11 官公庁などの文書で使用する言葉としてのふさわしさ（性別、性・年齢別）

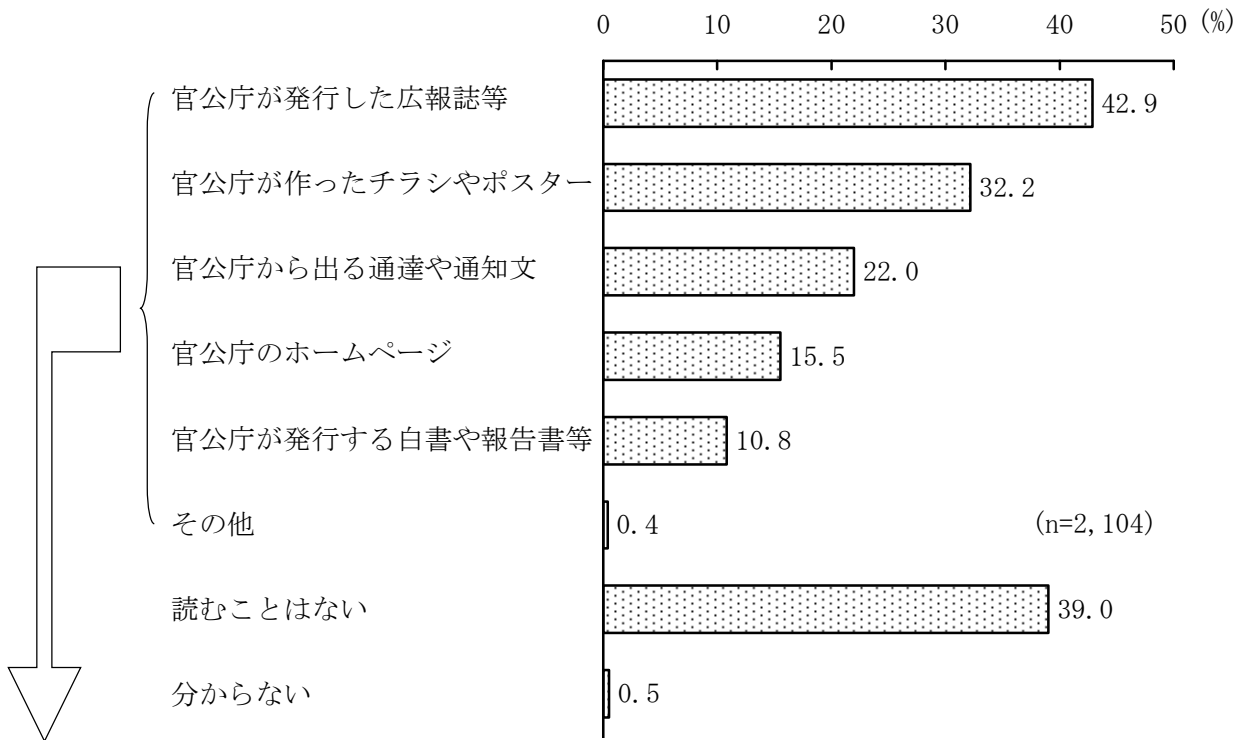
(%)

	n	(1) 措置		(2) 救援する		(3) 懇請		(4) 一環として		(5) 充当する		(6) 即応した	
		使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい
総数	2,104	67.9	22.2	80.2	12.3	29.5	54.4	76.0	15.3	68.9	20.9	70.4	19.5
[性]													
男性	965	70.1	21.2	81.6	11.4	31.5	52.6	77.2	14.7	70.1	20.8	71.8	19.3
女性	1,139	66.0	23.0	79.0	13.1	27.8	55.9	75.1	15.8	68.0	21.0	69.3	19.8
[性・年齢]													
男性・16～19歳	45	77.8	13.3	82.2	8.9	33.3	51.1	82.2	11.1	55.6	26.7	73.3	20.0
20～29歳	61	78.7	11.5	88.5	6.6	24.6	62.3	85.2	8.2	60.7	27.9	75.4	16.4
30～39歳	130	79.2	13.8	83.8	9.2	30.0	56.2	81.5	12.3	72.3	18.5	77.7	15.4
40～49歳	152	74.3	18.4	86.2	8.6	28.3	56.6	80.9	9.9	72.4	21.1	75.7	17.8
50～59歳	185	75.7	18.4	81.1	13.0	30.8	56.2	78.4	16.8	74.6	18.4	73.0	18.9
60歳以上	392	60.5	28.6	78.1	13.5	34.4	46.9	71.9	17.9	69.4	20.9	67.1	21.7
女性・16～19歳	35	80.0	11.4	85.7	5.7	25.7	45.7	74.3	14.3	48.6	31.4	60.0	17.1
20～29歳	89	76.4	16.9	87.6	9.0	32.6	56.2	83.1	14.6	71.9	23.6	76.4	16.9
30～39歳	153	73.9	19.0	81.7	11.1	22.9	62.1	80.4	12.4	67.3	20.9	71.2	17.6
40～49歳	199	71.4	19.6	83.4	10.6	32.2	55.8	80.4	12.1	71.9	18.6	77.9	14.1
50～59歳	210	71.0	22.4	80.5	13.8	27.1	61.0	78.1	17.6	73.8	19.5	71.4	20.0
60歳以上	453	55.6	28.3	73.3	15.9	27.2	52.3	68.0	18.1	64.5	21.4	63.1	23.6

	n	(7) 牙保		(8) 拒否する		(9) 阻む		(10) 充填する		(11) 堅持する		(12) 陳述する	
		使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい	使用しても問題ない	分かりやすい言葉に置き換えた方がよい
総数	2,104	9.7	65.7	82.0	10.5	65.4	24.4	38.5	47.6	55.9	32.0	60.3	28.3
[性]													
男性	965	11.6	64.4	82.7	10.5	69.3	21.6	46.1	42.1	64.5	26.2	62.3	27.8
女性	1,139	8.2	66.8	81.4	10.5	62.0	26.8	32.0	52.3	48.6	37.0	58.6	28.8
[性・年齢]													
男性・16～19歳	45	8.9	60.0	82.2	8.9	68.9	17.8	35.6	46.7	53.3	28.9	46.7	31.1
20～29歳	61	6.6	75.4	86.9	6.6	73.8	16.4	41.0	47.5	60.7	32.8	59.0	36.1
30～39歳	130	12.3	73.1	85.4	10.0	75.4	16.2	47.7	41.5	64.6	26.2	63.1	26.9
40～49歳	152	14.5	66.4	82.9	10.5	72.4	21.1	48.0	42.1	67.1	25.0	65.8	25.0
50～59歳	185	8.6	71.4	84.3	9.2	71.4	20.5	51.4	38.9	66.5	25.9	65.4	25.4
60歳以上	392	12.8	56.1	80.4	12.0	64.5	25.3	44.4	42.3	64.3	25.5	61.5	28.6
女性・16～19歳	35	2.9	65.7	85.7	2.9	71.4	14.3	11.4	71.4	31.4	48.6	60.0	28.6
20～29歳	89	10.1	73.0	87.6	9.0	73.0	22.5	32.6	56.2	50.6	41.6	58.4	34.8
30～39歳	153	5.2	77.1	86.9	6.5	68.0	23.5	28.8	60.8	42.5	44.4	61.4	29.4
40～49歳	199	8.5	70.9	83.9	10.6	70.4	20.6	40.2	46.7	51.8	35.7	64.3	22.6
50～59歳	210	11.0	67.1	81.9	11.4	60.5	29.5	29.0	55.7	47.1	40.5	56.7	32.4
60歳以上	453	7.7	60.3	76.6	12.4	54.1	31.1	32.2	48.1	51.0	31.6	55.8	28.5

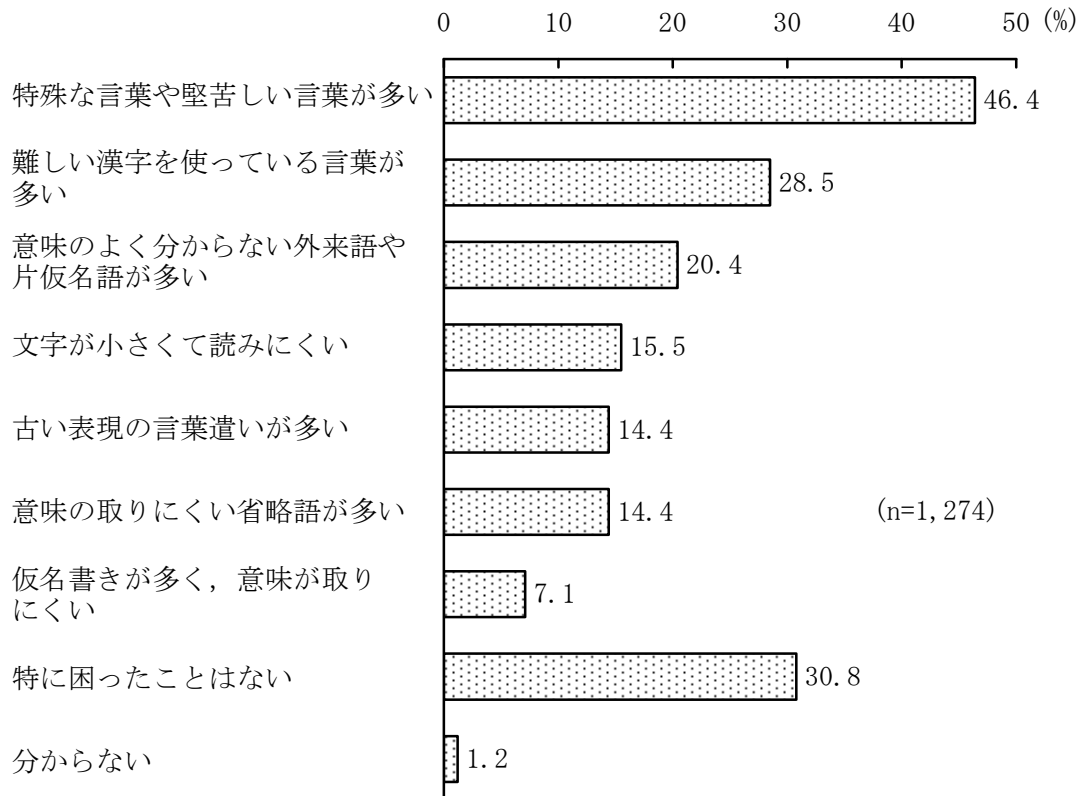
### 13. 官公庁などの文書で読むことがあるもの

問 13 [回答票] あなたは、官公庁などが示す文書を読むことがありますか。読むことがあるものをこの中から幾つでも選んでください。



(一つでも選択した人に)

付問 [回答票] あなたは、官公庁などが示す文書を読んでいて、何か困ったことはありませんか。この中から幾つでも選んでください。



官公庁などが示す文書で読むことがあるものを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「官公庁が発行した広報誌等」が 42.9%で最も高く、以下、「官公庁が作ったチラシやポスター」（32.2%）、「官公庁から出る通達や通知文」（22.0%）、「官公庁のホームページ」（15.5%）、「官公庁が発行する白書や報告書等」（10.8%）となっている。一方、「読むことはない」と答えた人の割合は 39.0%となっている。

地域ブロック別に見ると、全体での上位 3 項目は全ての地域で、同じ順に上位 3 項目となっている。「官公庁が発行した広報誌等」は北海道（56.7%）、東北（53.8%）、九州（51.0%）で 5 割台となっているが、四国では 25.0%となっている。「官公庁が作ったチラシやポスター」「官公庁から出る通達や通知文」は九州で他の地域に比べ高くなっている。また、「読むことはない」の割合は、四国（52.6%）で他の地域より高くなっている。

性別に見ると、上位 3 項目は男女で余り差が見られないが、「官公庁のホームページ」（男性 21.8%、女性 10.2%）、「官公庁が発行する白書や報告書等」（男性 13.0%、女性 9.0%）は男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「官公庁のホームページ」を除いて、おおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。「官公庁のホームページ」は男性の 40～50 代で他の年代より高く 3 割強となっている。一方、「読むことはない」の割合は男女ともに 50 代で最も低く、年代が下がるに従って高くなり、20 代では 6 割台後半、16～19 歳では 7 割台半ばとなっている（表 12 参照）。



表 12 官公庁などの文書で読むことがあるもの（地域ブロック別、性別、性・年齢別）

(%)

	n	官公庁が 発行した 広報誌等	官公庁が 作ったチ ラシやポ スター	官公庁か ら出る通 達や通知 文	官公庁の ホーム ページ	官公庁が 発行する 白書や報 告書等	読むこと はない
総 数	2,104	42.9	32.2	22.0	15.5	10.8	39.0
[地域ブロック]							
北海道	97	56.7	34.0	22.7	14.4	10.3	29.9
東北	145	53.8	36.6	20.7	6.2	11.0	41.4
関東	680	42.1	33.5	22.6	19.4	12.2	36.3
北陸	98	38.8	25.5	16.3	11.2	11.2	44.9
中部	313	37.4	27.8	20.1	13.1	12.1	45.0
近畿	315	41.9	29.5	21.6	16.5	8.6	39.0
中国	139	39.6	33.8	17.3	10.1	7.2	43.2
四国	76	25.0	21.1	19.7	11.8	9.2	52.6
九州	241	51.0	39.8	29.0	18.3	10.8	31.5
[性]							
男性	965	41.8	32.5	23.3	21.8	13.0	37.3
女性	1,139	43.9	32.0	20.8	10.2	9.0	40.4
[性・年齢]							
男性・16～19歳	45	11.1	15.6	-	2.2	-	75.6
20～29歳	61	21.3	18.0	9.8	8.2	3.3	65.6
30～39歳	130	23.1	26.9	20.8	20.8	9.2	47.7
40～49歳	152	36.8	34.9	27.0	33.6	16.4	32.2
50～59歳	185	49.7	37.3	30.3	31.9	15.1	25.9
60歳以上	392	52.8	35.5	24.2	17.1	14.8	32.4
女性・16～19歳	35	5.7	8.6	2.9	2.9	2.9	74.3
20～29歳	89	10.1	20.2	9.0	11.2	9.0	68.5
30～39歳	153	29.4	26.1	11.8	11.8	5.9	51.0
40～49歳	199	41.2	33.2	22.1	18.6	8.5	37.2
50～59歳	210	53.8	42.9	23.3	11.4	10.0	31.0
60歳以上	453	55.0	32.5	25.8	5.7	10.4	34.4

## 官公庁などの文書を読んでいて困ったこと

官公庁などが示す文書で読むことがあるものを一つでも答えた人（全体の 60.6%）に、官公庁などが示す文書を読んでいて困ったことがあるかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」が 46.4%で最も高く、以下、「難しい漢字を使っている言葉が多い」（28.5%）、「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」（20.4%）、「文字が小さくて読みにくい」（15.5%）、「古い表現の言葉遣いが多い」「意味の取りにくい省略語が多い」（各 14.4%）、「仮名書きが多く、意味が取りにくい」（7.1%）となっている。一方、「特に困ったことはない」と答えた人の割合は 30.8%となっている。

地域ブロック別に見ると、全体で上位 2 項目に挙げられた項目は全ての地域で、同じ順に上位 2 項目となっているが、両項目とも中部、四国で他の地域に比べ割合が高くなっている。また、「特に困ったことはない」の割合は、東北（40.0%）、近畿（43.5%）で 4 割台前半と他の地域より高い。

性別に見ると、男女とも「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」（男性 51.7%、女性 41.6%）が最も高くなっているが、割合は男性の方が 10 ポイント高い。このほか、「古い表現の言葉遣いが多い」（男性 17.5%、女性 11.6%）、「仮名書きが多く、意味が取りにくい」（男性 9.7%、女性 4.9%）も男性の方が 5 ポイント前後高くなっている。

性・年齢別に見ると、「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」は男女とも 40 代で最も高くなっている。また、「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」は男性の 60 歳以上と女性の 40 代、60 歳以上で他の年代に比べ高くなっている。

言葉遣いへの関心別に見ると、「文字が小さくて読みにくい」を除く項目の割合は全て、言葉遣いに「関心がある（計）」と回答した人の方が「関心がない（計）」と回答した人よりも高くなっている（表 13 参照）。

表 13 官公庁などの文書を読んでいて困ったこと

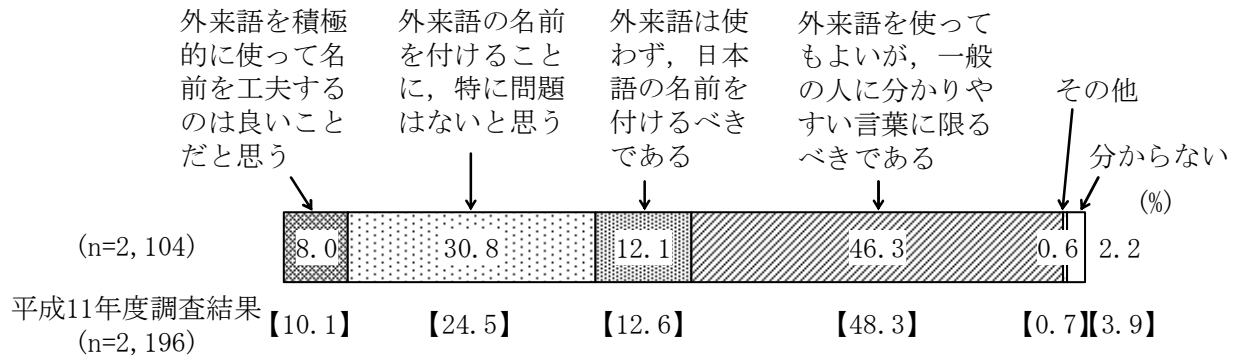
(地域ブロック別、性別、性・年齢別、言葉遣いへの関心別)

(%)

	n	特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い	難しい漢字を使っている言葉が多い	意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い	文字が小さくて読みにくい	古い表現の言葉遣いが多い	意味の取りにくい省略語が多い	仮名書きが多く、意味が取りにくい	特に困ったことはない
総数	1,274	46.4	28.5	20.4	15.5	14.4	14.4	7.1	30.8
[地域ブロック]									
北海道	68	51.5	33.8	26.5	23.5	10.3	16.2	11.8	29.4
東北	85	32.9	22.4	22.4	16.5	3.5	16.5	3.5	40.0
関東	428	48.8	27.3	18.7	14.0	18.2	15.7	7.2	28.5
北陸	54	42.6	27.8	27.8	18.5	13.0	5.6	13.0	29.6
中部	172	54.1	36.0	16.3	11.0	20.3	19.2	6.4	25.6
近畿	191	37.7	22.0	15.7	14.1	13.1	12.6	3.7	43.5
中国	76	47.4	32.9	27.6	21.1	13.2	13.2	11.8	26.3
四国	35	68.6	48.6	17.1	17.1	17.1	11.4	5.7	11.4
九州	165	43.0	26.1	26.1	18.2	7.3	10.3	7.9	30.3
[性別]									
男性	601	51.7	30.6	20.6	14.1	17.5	15.5	9.7	27.1
女性	673	41.6	26.6	20.2	16.8	11.6	13.4	4.9	34.2
[性・年齢]									
男性・16～19歳	11	54.5	54.5	18.2	-	18.2	27.3	-	18.2
20～29歳	21	47.6	19.0	4.8	4.8	19.0	14.3	14.3	33.3
30～39歳	68	52.9	25.0	13.2	8.8	10.3	8.8	10.3	25.0
40～49歳	103	61.2	29.1	15.5	14.6	15.5	17.5	8.7	22.3
50～59歳	136	49.3	29.4	18.4	10.3	18.4	14.7	5.1	30.1
60歳以上	262	49.2	33.2	27.1	18.7	19.5	16.4	12.2	27.9
女性・16～19歳	8	-	37.5	-	25.0	-	-	12.5	37.5
20～29歳	27	37.0	22.2	11.1	14.8	7.4	7.4	3.7	37.0
30～39歳	75	48.0	24.0	10.7	14.7	12.0	9.3	5.3	32.0
40～49歳	122	54.9	26.2	23.0	9.8	14.8	11.5	4.1	30.3
50～59歳	145	47.6	22.8	18.6	18.6	11.7	14.5	4.1	30.3
60歳以上	296	33.1	29.4	23.6	19.3	10.8	15.5	5.4	37.8
[言葉遣いへの関心]									
関心がある(計)	1,130	47.8	28.9	21.0	15.5	15.0	15.0	7.6	29.4
関心がない(計)	142	35.9	25.4	15.5	16.2	9.9	9.2	2.8	42.3

#### 14. 公共施設名や事業名に外来語を使うことに対する考え

問 14 [回答票] 「コミュニティーセンター」や「スポーツフェスティバル」など、公共の施設や催しに外来語の名前が付いていることがあります。あなたはこのことについてどう考えますか。この中から、あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。



公共の施設や催しに外来語の名前が付いていることがあるが、このことについてどう考えるかを尋ねた。

「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合が46.3%と最も高く、次いで「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」の割合が30.8%となっている。「外来語は使わず、日本語の名前を付けるべきである」(12.1%)、「外来語を積極的に使って名前を工夫するのは良いことだと思う」(8.0%)と答えた人の割合は1割前後となっている。

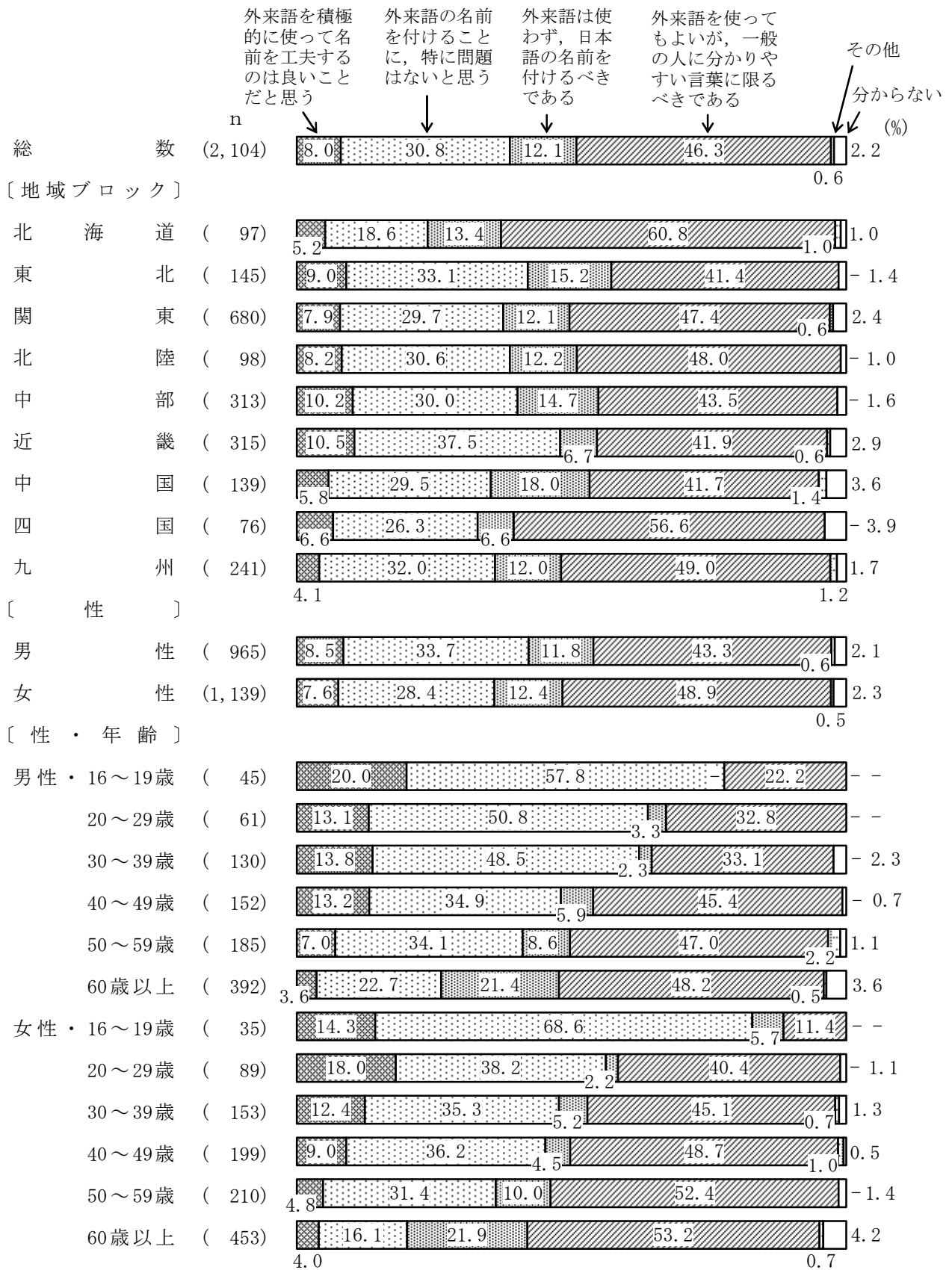
平成11年度調査結果と比較すると、「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」の割合が6ポイント増加している。

地域ブロック別に見ると、全ての地域ブロックで「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合が最も高くなっているが、中でも北海道で60.8%となっている。「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」の割合は近畿(37.5%)で他の地域より高くなっている。

性別に見ると、「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」(男性43.3%、女性48.9%)は女性の方が高く、「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」(男性33.7%、女性28.4%)は男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合は男女とも年代が上がるほど高くなる傾向が見られるのに対し、「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」の割合は男女とも年代が下がるほど高くなる傾向が見られる。男性の30代以下と女性の16～19歳では、「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」の割合が「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合を上回っている。また、「外来語は使わず、日本語の名前を付けるべきである」の割合は男女とも60歳以上で、「外来語を積極的に使って名前を工夫するのは良いことだと思う」の割合は男性の16～19歳と女性の20代で、それぞれ2割前後と他の年代に比べ高くなっている(図18参照)。

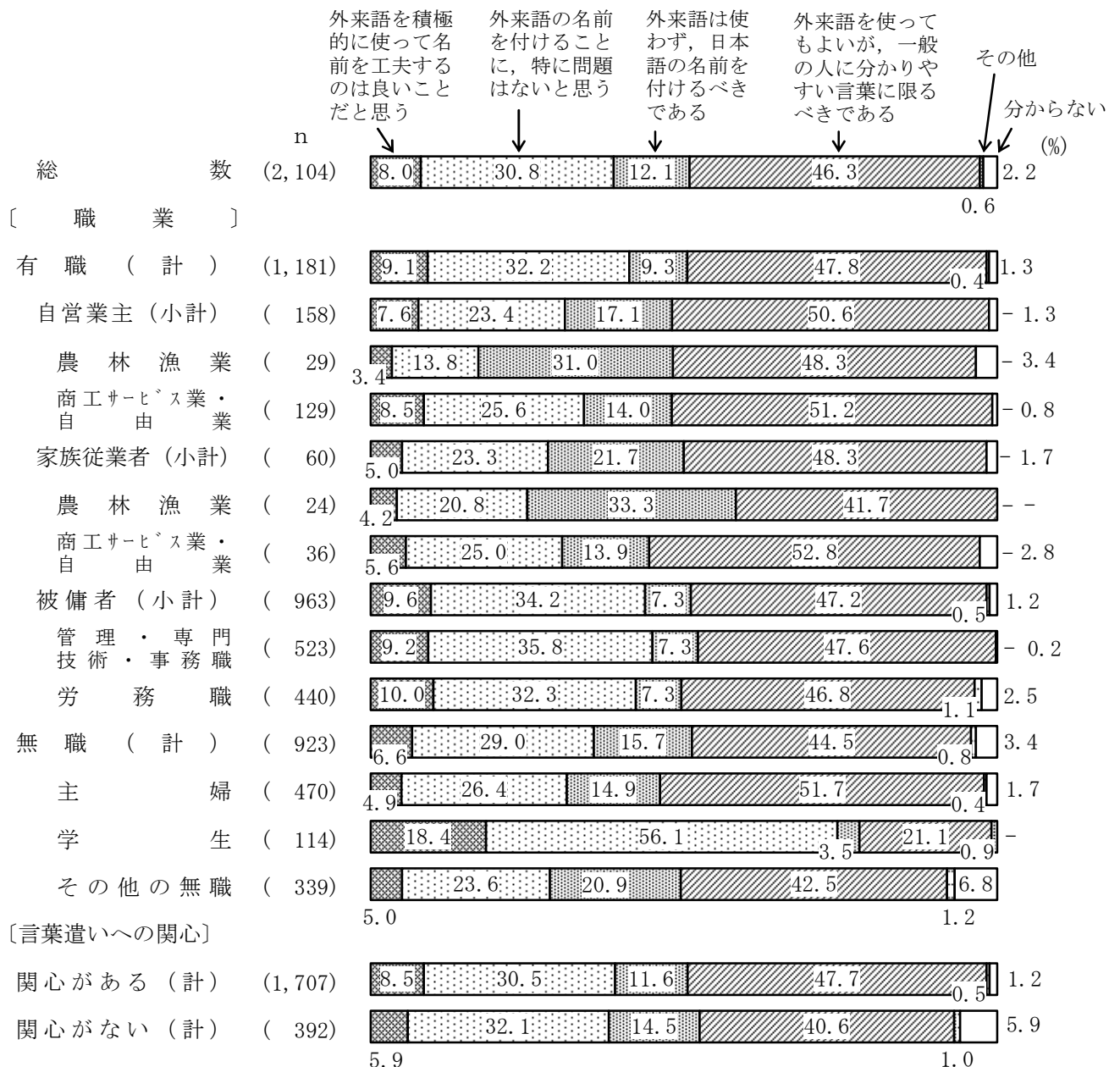
図 18 公共施設名や事業名に外来語を使うことに対する考え（地域ブロック別、性別、性・年齢別）



職業別に見ると、「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合は、自営業主及び家族従業者の商工サービス業・自由業と主婦で5割強となっているが、学生では2割強となっている。学生では「外来語の名前を付けることに、特に問題はないと思う」が5割台半ば、「外来語を積極的に使って名前を工夫するのは良いことだと思う」が2割弱と他の職業に比べ高くなっている。

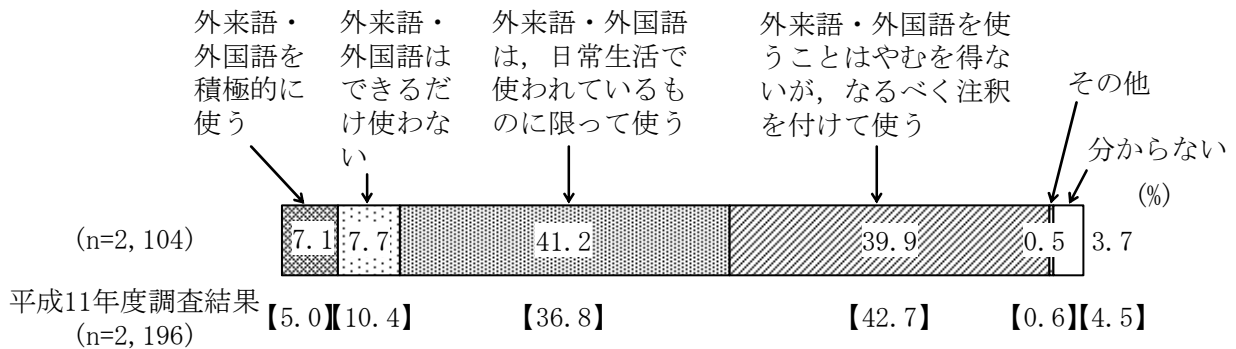
言葉遣いへの関心別に見ると、「外来語を使ってもよいが、一般の人に分かりやすい言葉に限るべきである」の割合は、言葉遣いに「関心がある（計）」と回答した人の方が「関心がない（計）」と回答した人よりも7ポイント高くなっている（図19参照）。

図19 公共施設名や事業名に外来語を使うことに対する考え（職業別、言葉遣いへの関心別）



## 15. 官公庁の広報やパンフレットなどで使用する外来語についての考え

問 15 [回答票] 官公庁の広報やパンフレットなどを、読者にとって分かりやすいものにするために、外来語・外国語についてはどのようにするのが良いと思いますか。この中から、あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。



官公庁の広報やパンフレットなどを分かりやすいものにするという観点から、外来語・外国語の使用についてどう考えるかを尋ねた。

「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」の割合が41.2%と最も高く、次いで「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」の割合が39.9%となっている。「外来語・外国語はできるだけ使わない」(7.7%)、「外来語・外国語を積極的に使う」(7.1%)と答えた人の割合は1割未満となっている。

平成11年度調査結果と比較すると、「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」が4ポイント増加し、前回調査で最も割合の高かった「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」の割合を今回は上回った。

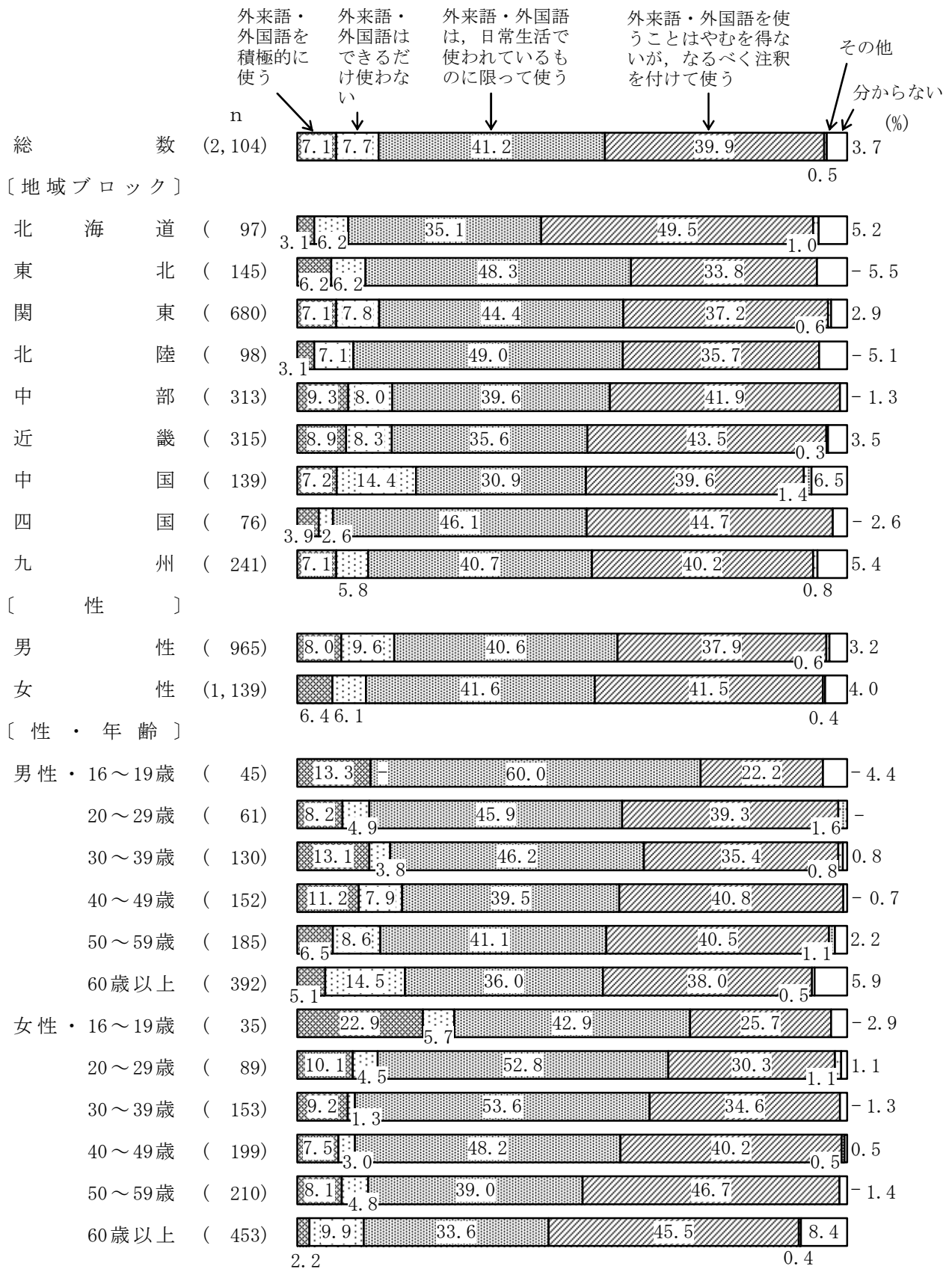
地域ブロック別に見ると、「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」の割合は東北(48.3%)、関東(44.4%)、北陸(49.0%)、四国(46.1%)で、他の地域より高くなっている。「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」の割合は北海道(49.5%)で、「外来語・外国語はできるだけ使わない」の割合は中国(14.4%)で、それぞれ他の地域に比べ高くなっている。

性別に見ると、「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」(男性37.9%、女性41.5%)は女性の方が高く、「外来語・外国語はできるだけ使わない」(男性9.6%、女性6.1%)は男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」の割合は男性の30代以下と女性の20~40代で4割台半ばを超えている。「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」の割合は、女性では年代が上がるほど高くなり50代以上で4割台半ばとなっている。「外来語・外国語を積極的に使う」の割合は女性の16~19歳で他の年代より高く2割強、「外来語・外国語はできるだけ使わない」の割合は男女とも60歳以上で最も高くなっている(図20参照)。

図 20 官公庁の広報やパンフレットなどで使用する外来語についての考え

(地域ブロック別、性別、性・年齢別)

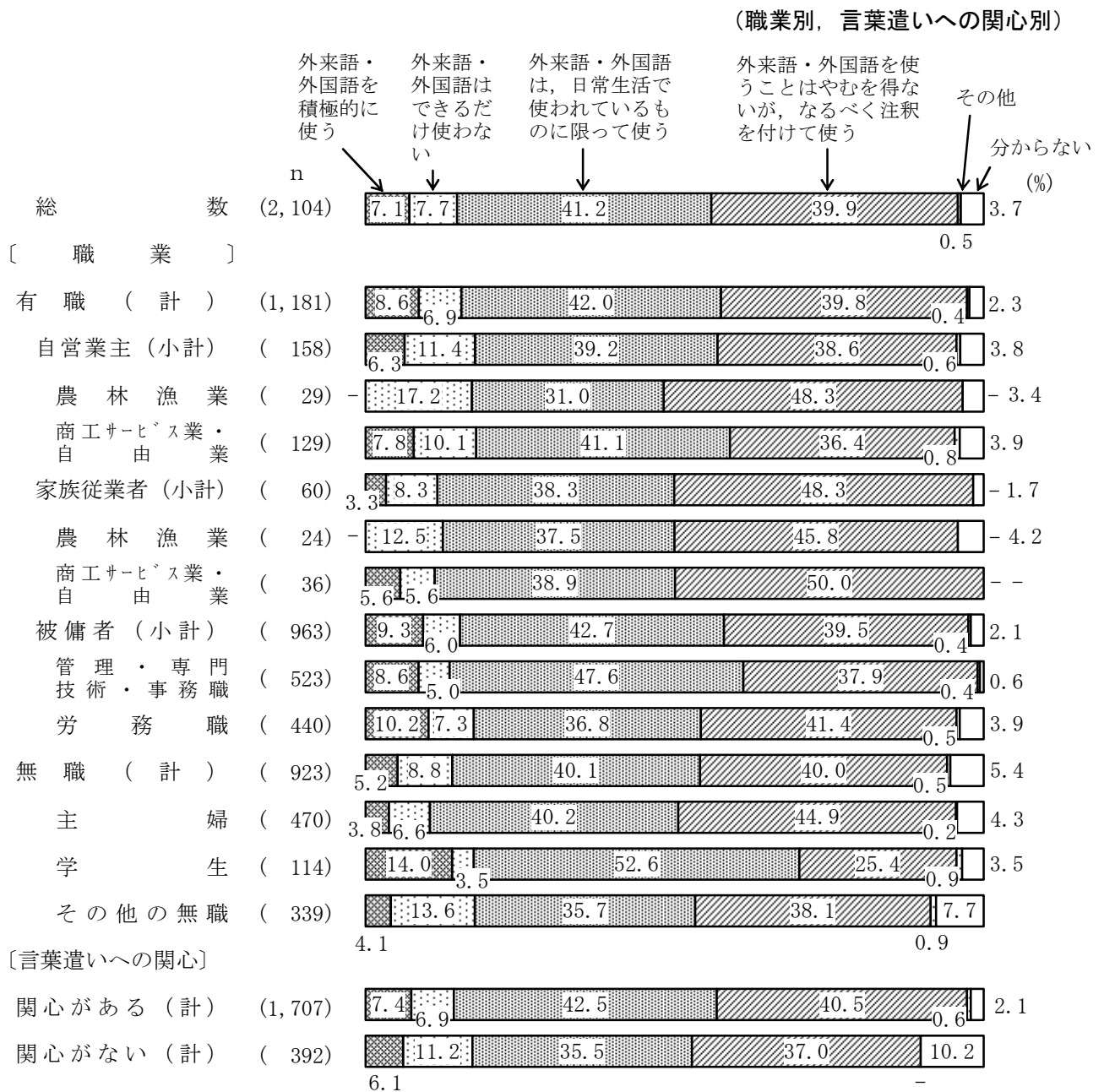




職業別に見ると、「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」の割合は、管理・専門技術・事務職と学生で他の職業より高く 5 割前後となっている。「外来語・外国語を使うことはやむを得ないが、なるべく注釈を付けて使う」の割合は、主婦で他の職業より高く 4 割台半ばとなっている。

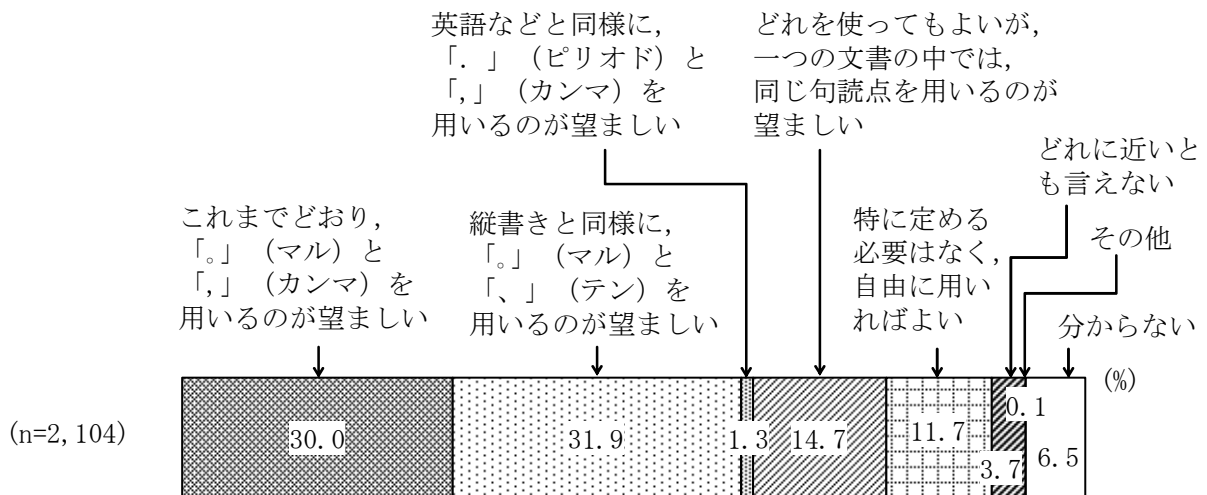
言葉遣いへの関心別に見ると、「外来語・外国語は、日常生活で使われているものに限って使う」の割合は、言葉遣いに「関心がある（計）」と回答した人の方が「関心がない（計）」と回答した人よりも 7 ポイント高くなっている。一方、「外来語・外国語はできるだけ使わない」の割合は、言葉遣いに「関心がない（計）」と回答した人の方が「関心がある（計）」と回答した人よりも 4 ポイント高くなっている（図 21 参照）。

図 21 官公庁の広報やパンフレットなどで使用する外来語についての考え



## 16. 公用文や教科書に用いる句読点についての考え

問 16〔回答票〕昭和 27 年の内閣官房長官通知「公用文作成の要領」では、官公庁で作成する公用文は、左から右へ横書きし、句読点には、「。」(マル)と「,」(カンマ(コンマ))を用いることになっています。これに従い、原則として、官公庁で作る文書や学校の教科書などでは、横書きする際の句読点に「。」と「,」を使用しています。あなたは、公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どのようにするのが良いと考えますか。この中から、あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。



公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どのようにするのが良いと考えるかを尋ねた。

「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」の割合が 30.0%となっている。以下、「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」(14.7%)、「特に定める必要はなく、自由に用いればよい」(11.7%)、「英語などと同様に、「。」(ピリオド)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」(1.3%)となっている。

地域ブロック別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」の割合は北陸で 41.8%となっているが、東北では 15.9%となっている。「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」の割合は中国(37.4%)、四国(35.5%)で3割台後半となっているが、北海道では 21.6%となっている。北海道では「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」(21.6%)の割合が他の地域に比べ高くなっている。

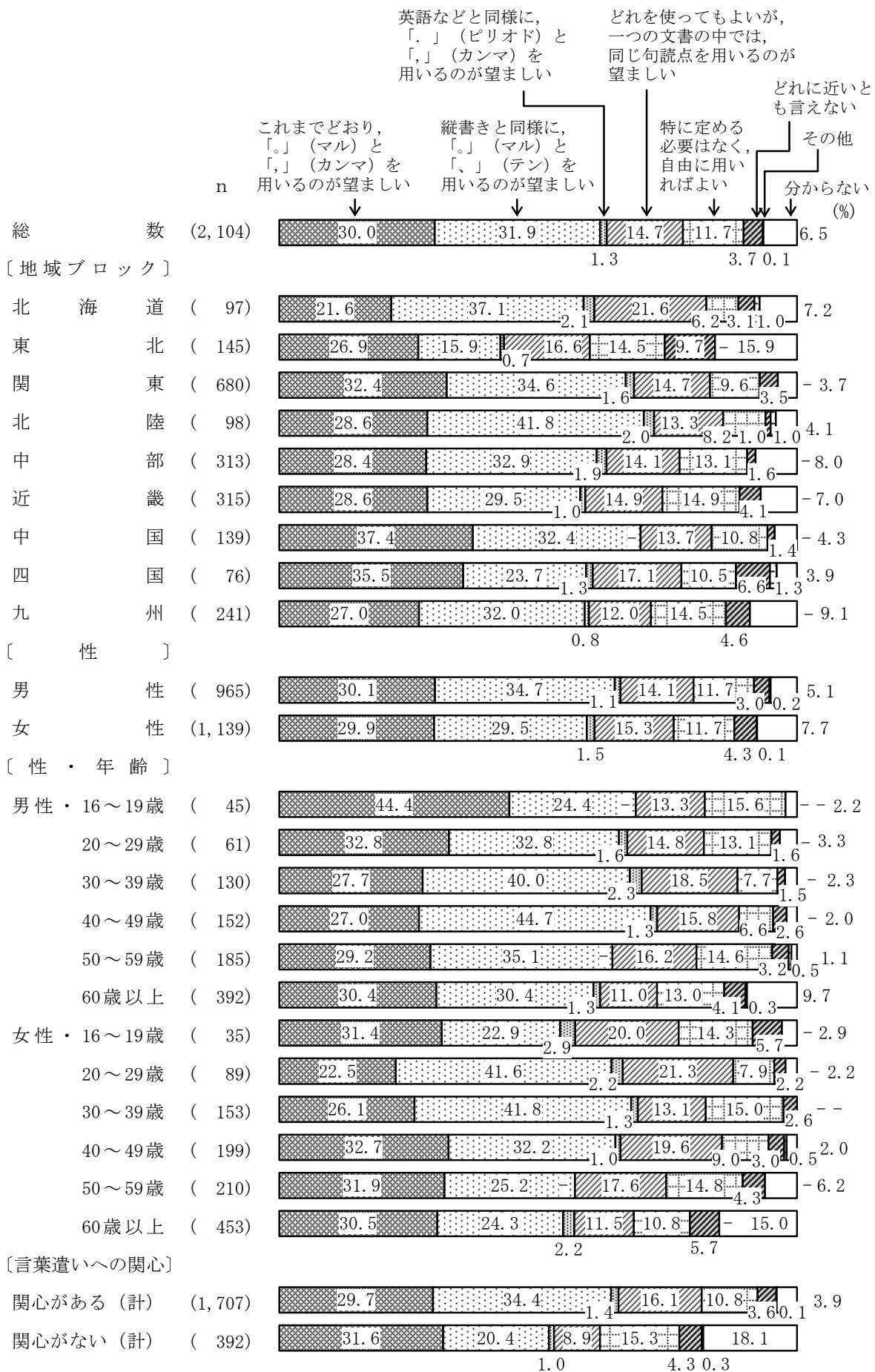
性別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」(男性 34.7%、女性 29.5%)は男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」の割合は男性の 30~40 代と女性の 20~30 代で他の年代より高く 4割台前半となっている。「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」の割合は男性の 16~19 歳で他の年代より高く 4割台半ばとなっている。

言葉遣いへの関心別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」の割合は、言葉遣いに「関心がある(計)」と回答した人の方が「関心がない(計)」と回答した人よりも 14 ポイント高くなっている。同様に「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」も、言葉遣いに「関心がある(計)」と回答した人の方が「関心がない(計)」と回答した人よりも 7 ポイント高くなっている(図 22 参照)。

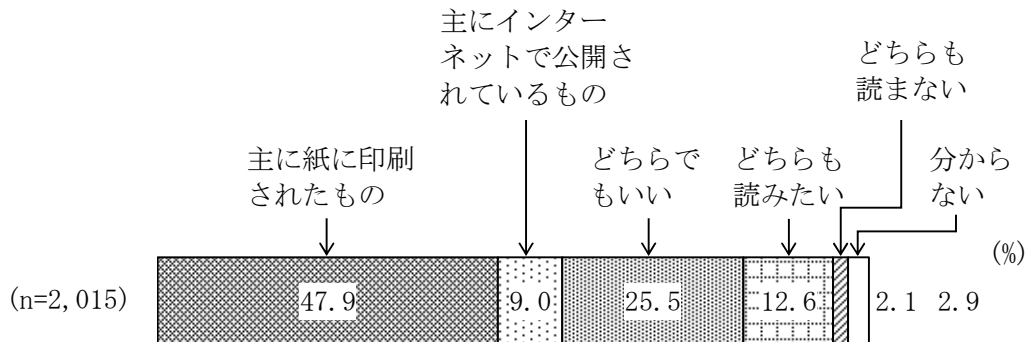
図 22 公用文や教科書に用いる句読点についての考え

(地域ブロック別、性別、性・年齢別、言葉遣いへの関心別)



## 21. 国や自治体が発信した情報を得るための媒体

問 21〔回答票〕現在、国や自治体は、様々なお知らせなどの文書やパンフレットを紙に印刷して配布するだけでなく、インターネットでも発信しています。あなたは、そうした情報を紙で読みたいと思いますか、それともインターネットを通して読みたいと思いますか。



国や自治体の様々なお知らせを紙で読みたいと思うか、それともインターネットを通して読みたいと思うかを尋ねた。

「主に紙に印刷されたもの」が47.9%、「主にインターネットで公開されているもの」が9.0%となっている。また、「どちらでもいい」が25.5%、「どちらも読みたい」が12.6%、「どちらも読まない」が2.1%となっている。

【以下、次ページ、図16参照】

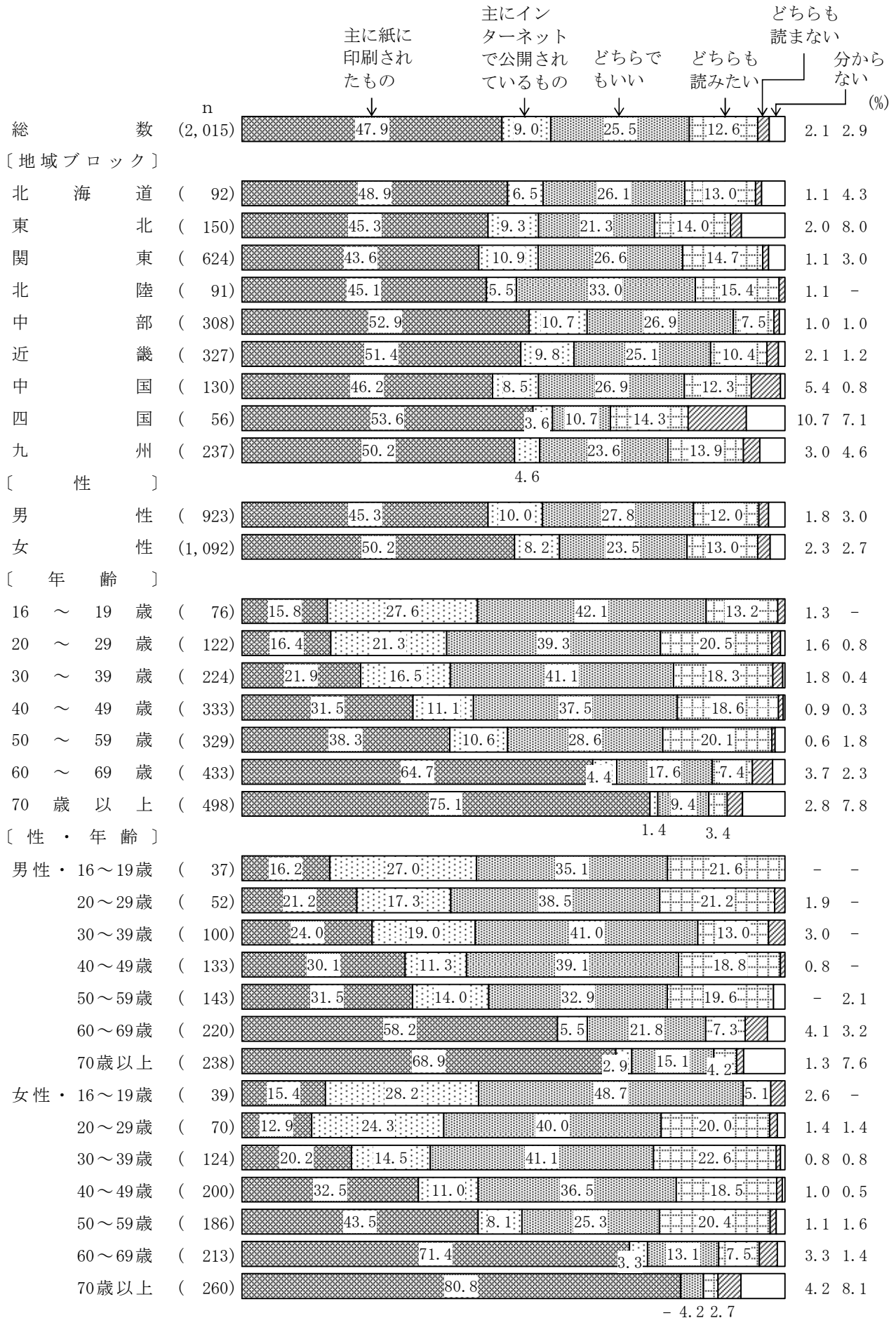
地域ブロック別に見ると、「主に紙に印刷されたもの」は、全ての地域で4～5割台となり、他の選択肢の割合を上回っている。「どちらでもいい」は、北陸で他の地域より高く33.0%となっている。

性別に見ると、「主に紙に印刷されたもの」（男性45.3%、女性50.2%）は女性の方が高く、「どちらでもいい」（男性27.8%、女性23.5%）は男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「主に紙に印刷されたもの」は、年代が上がるに従って高くなり60代で64.7%、70歳以上で75.1%となっている。一方、「主にインターネットで公開されているもの」は、年代が下がるに従って高くなり、20代以下で2割台となっている。「どちらでもいい」は、40代以下で50代以上より高く約4割となっている。「どちらも読みたい」は、20～50代で他の年代より高く約2割となっている。

性・年齢別に見ると、「主に紙に印刷されたもの」は、男女とも年代が高いほど高くなる傾向があり、男女の60代以上で50代以下より高く5割を超えている。一方、「主にインターネットで公開されているもの」は、男女とも年代が低いほど高くなる傾向があり、男性の16～19歳と女性の20代以下で2割台となっている。「どちらでもいい」は、男性の50代以下と女性の40代以下で他の年代より高く3～4割台となっている。「どちらも読みたい」は、男性の20代以下、40～50代と女性の20～50代で他の年代より高く約2割となっている。

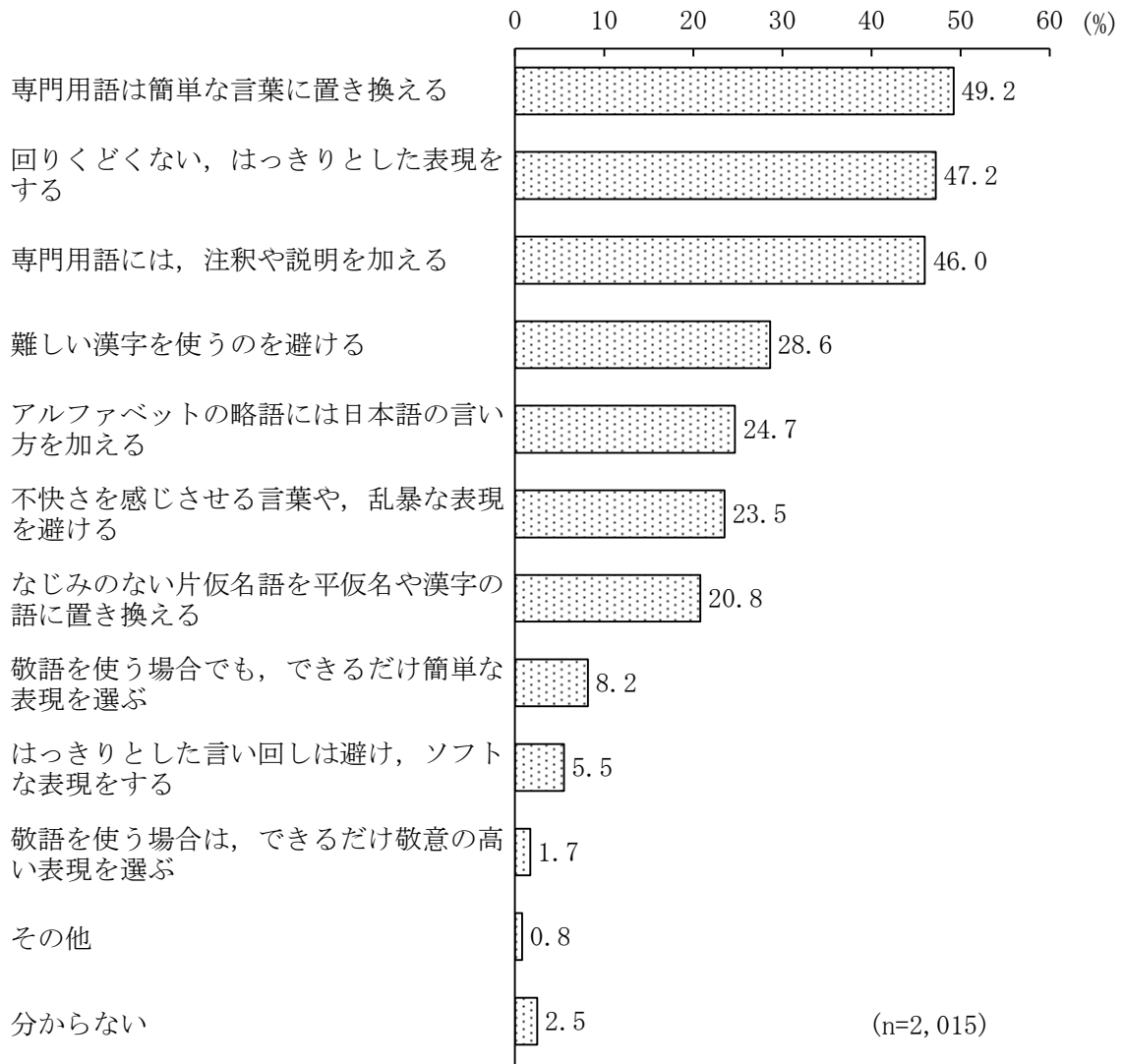
図 16 国や自治体が発信した情報を得るための媒体（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別）



22. 国や自治体が情報を発信する際に配慮してほしいこと

問 22 [回答票] あなたは、国や自治体からの様々なお知らせなどの文章について、どんなところに配慮して書いてもらいたいと思いますか。この中からあなたのお考えに近いものをそれぞれ三つまで挙げてください。

(1) 言葉や表現などについて



国や自治体からの様々なお知らせなどの文章の言葉や表現などについて、どんなところに配慮して書いてもらいたいと思うかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「専門用語は簡単な言葉に置き換える」が49.2%で最も高く、次いで「回りくどくない、はっきりとした表現をする」が47.2%、「専門用語には、注釈や説明を加える」が46.0%となっている。以下、「難しい漢字を使うのを避ける」(28.6%)、「アルファベットの略語には日本語の言い方を加える」(24.7%)、「不快さを感じさせる言葉や、乱暴な表現を避ける」(23.5%)、「なじみのない片仮名語を平仮名や漢字の語に置き換える」(20.8%)、「敬語を使う場合でも、できるだけ簡単な表現を選ぶ」(8.2%)、「はっきりとした言い回しは避け、ソフトな表現をする」(5.5%)、「敬語を使う場合は、できるだけ敬意の高い表現を選ぶ」(1.7%)となっている。

約

【以下、次ページ、表 10 参照】

地域ブロック別に見ると、「専門用語は簡単な言葉に置き換える」「専門用語には、注釈や説明を加える」は、四国で他の地域より高くそれぞれ約 6 割、約 5 割となっている。「回りくどくない、はっきりとした表現をする」は、北海道 (48.9%)、東北 (50.0%)、関東 (51.6%) で他の地域より高く約 5 割となっている。「難しい漢字を使うのを避ける」は北海道 (35.9%) で、「アルファベットの略語には日本語の言い方を加える」は中国 (36.2%) で、それぞれ他の地域より高く 3 割台後半となっている。

性別に見ると、「専門用語は簡単な言葉に置き換える」(男性 46.7%、女性 51.4%)、「アルファベットの略語には日本語の言い方を加える」(男性 21.5%、女性 27.4%)、「不快さを感じさせる言葉や、乱暴な表現を避ける」(男性 21.0%、女性 25.6%) は女性の方が高く、「回りくどくない、はっきりとした表現をする」(男性 50.2%、女性 44.8%) は男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「専門用語は簡単な言葉に置き換える」は 30～60 代で、「回りくどくない、はっきりとした表現をする」と「専門用語には、注釈や説明を加える」は 40 代以下で、それぞれ他の年代より高く 5 割を超えている。「難しい漢字を使うのを避ける」は 50 代以上で、「不快さを感じさせる言葉や、乱暴な表現を避ける」は 16～19 歳と 30～40 代で、それぞれ他の年代より高く 3 割台となっている。

「なじみのない片仮名語を平仮名や漢字の語に置き換える」は、年代が高いほど高くなる傾向があり、60 代以上で 2 割台半ばとなっている。

性・年齢別に見ると、「専門用語は簡単な言葉に置き換える」は、女性の 40～50 代で他の年代より高く約 6 割となっている。「回りくどくない、はっきりとした表現をする」は、男性の 20～30 代で他の年代より高く 6～7 割台となっている。「専門用語には、注釈や説明を加える」は、男性の 30 代と女性の 30 代以下で他の年代より高く 5 割台後半となっている。「難しい漢字を使うのを避ける」は、男性の 70 歳以上で他の年代より高く 38.7%となっている。「アルファベットの略語には日本語の言い方を加える」は、女性の 40 代以上で他の年代より高く約 3 割となっている。「不快さを感じさせる言葉や、乱暴な表現を避ける」は、男性の 16～19 歳と女性の 16～19 歳、30～50 代で他の年代より高く 3 割台となっている。

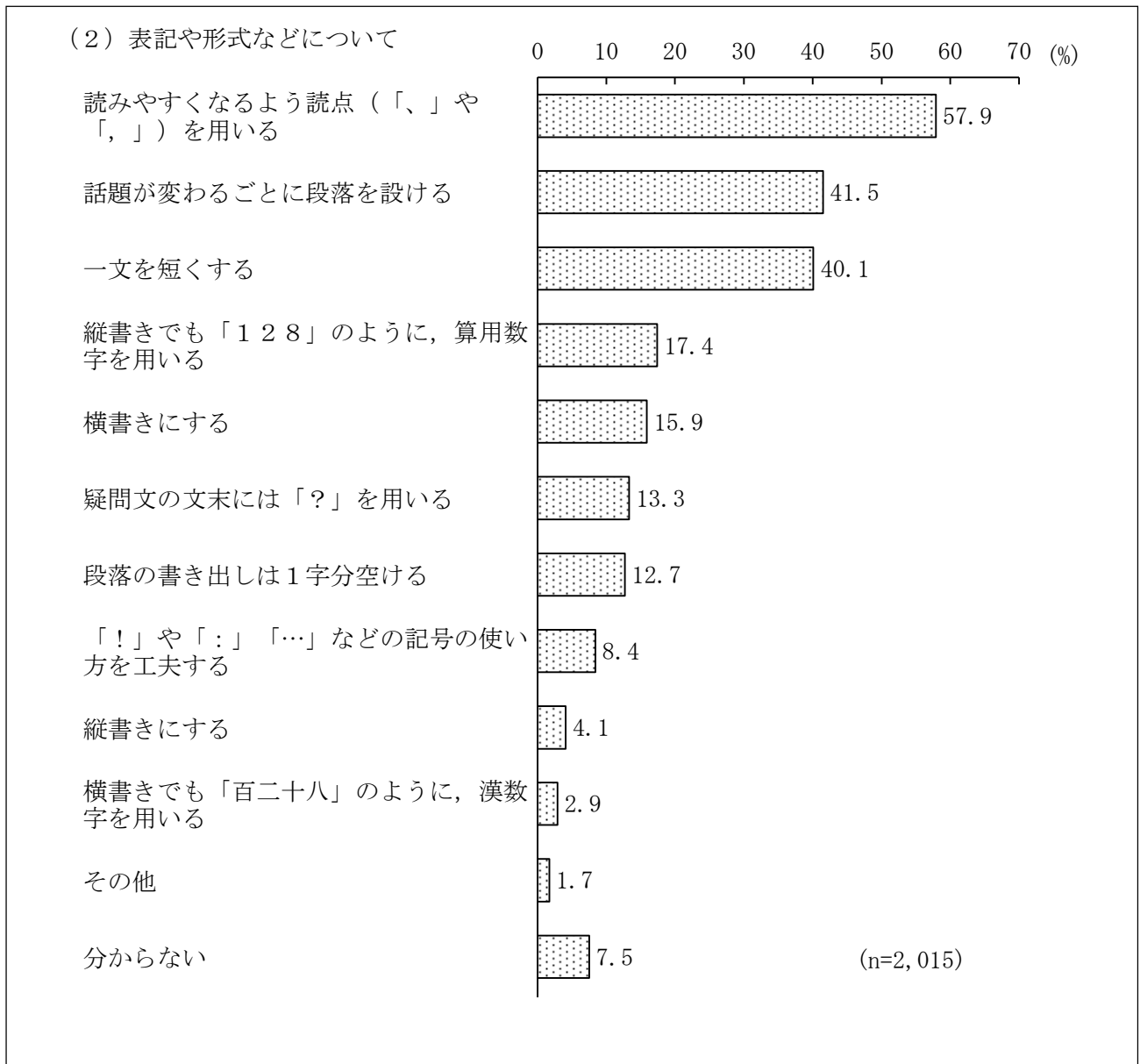
表 10 国や自治体が情報を発信する際に配慮してほしいこと（1）言葉や表現などについて

（地域ブロック別，性別，年齢別，性・年齢別）

（%）

	n	専門用語は簡単な言葉に置き換える	回りくどい、はっきりとした表現をする	専門用語には注釈を加える	難しい漢字を使うのを避ける	アルファベットの略語には日本語の方を加える	不快をさせる言葉や、暴現を避ける	さじる乱表	なじみのない名平やの置き換える	敬語を使う場合も、できるだけ簡単な表現を選ぶ	はっきりとした言い回しは避け、ソフトな表現をする	敬語を使う場合は、できるだけ敬意の高い表現を選ぶ
総数	2,015	49.2	47.2	46.0	28.6	24.7	23.5	20.8	8.2	5.5	1.7	
[地域ブロック]												
北海道	92	50.0	48.9	43.5	35.9	21.7	26.1	22.8	9.8	3.3	2.2	
東北	150	38.0	50.0	37.3	31.3	18.7	24.0	25.3	12.0	7.3	1.3	
関東	624	51.4	51.6	47.6	26.3	21.3	22.4	20.4	7.9	5.1	1.3	
北陸	91	52.7	42.9	45.1	33.0	27.5	14.3	19.8	11.0	7.7	2.2	
中部	308	52.3	46.4	44.5	30.5	27.9	23.4	23.7	8.1	4.5	1.6	
近畿	327	48.0	44.3	48.3	30.0	26.3	22.9	22.0	5.8	4.9	1.2	
中国	130	43.8	43.1	43.1	25.4	36.2	26.9	18.5	11.5	5.4	3.1	
四国	56	58.9	44.6	51.8	30.4	21.4	23.2	17.9	5.4	-	-	
九州	237	47.3	43.0	47.3	25.3	25.3	27.8	15.6	7.2	8.9	3.0	
[性]												
男性	923	46.7	50.2	46.7	29.8	21.5	21.0	22.2	7.9	5.6	1.8	
女性	1,092	51.4	44.8	45.3	27.6	27.4	25.6	19.7	8.4	5.4	1.6	
[年齢]												
16～19歳	76	47.4	55.3	52.6	14.5	18.4	35.5	10.5	7.9	5.3	3.9	
20～29歳	122	45.1	65.6	53.3	19.7	21.3	27.9	13.9	9.8	6.6	1.6	
30～39歳	224	53.6	57.1	56.7	21.9	20.1	30.8	13.4	7.6	5.4	1.3	
40～49歳	333	53.2	53.2	51.7	21.9	26.7	32.4	17.1	6.6	2.7	1.8	
50～59歳	329	55.0	47.7	43.5	31.6	26.1	26.7	21.9	5.5	6.1	0.6	
60～69歳	433	52.7	46.2	45.5	32.3	24.9	18.2	24.5	9.5	5.1	1.6	
70歳以上	498	39.2	33.7	36.5	35.1	25.9	13.9	26.1	9.8	7.2	2.2	
[性・年齢]												
男性・16～19歳	37	45.9	51.4	45.9	18.9	13.5	32.4	16.2	8.1	2.7	2.7	
20～29歳	52	44.2	75.0	50.0	15.4	19.2	28.8	19.2	5.8	7.7	1.9	
30～39歳	100	52.0	65.0	57.0	19.0	18.0	27.0	9.0	5.0	7.0	3.0	
40～49歳	133	45.9	54.9	51.1	21.1	23.3	25.6	18.8	6.8	2.3	3.8	
50～59歳	143	46.2	50.3	49.0	32.9	23.8	21.7	21.0	4.2	6.3	-	
60～69歳	220	53.2	47.3	47.7	33.6	19.5	16.8	26.8	10.5	4.1	1.4	
70歳以上	238	39.9	38.2	37.0	38.7	23.9	16.0	27.7	10.1	8.0	1.7	
女性・16～19歳	39	48.7	59.0	59.0	10.3	23.1	38.5	5.1	7.7	7.7	5.1	
20～29歳	70	45.7	58.6	55.7	22.9	22.9	27.1	10.0	12.9	5.7	1.4	
30～39歳	124	54.8	50.8	56.5	24.2	21.8	33.9	16.9	9.7	4.0	-	
40～49歳	200	58.0	52.0	52.0	22.5	29.0	37.0	16.0	6.5	3.0	0.5	
50～59歳	186	61.8	45.7	39.2	30.6	28.0	30.6	22.6	6.5	5.9	1.1	
60～69歳	213	52.1	45.1	43.2	31.0	30.5	19.7	22.1	8.5	6.1	1.9	
70歳以上	260	38.5	29.6	36.2	31.9	27.7	11.9	24.6	9.6	6.5	2.7	





国や自治体からの様々なお知らせなどの文章の表記や形式などについて、どんなところに配慮して書いてもらいたいと思うかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「読みやすくなるよう読点（「、」や「，」）を用いる」が57.9%で最も高く、次いで「話題が変わるごとに段落を設ける」が41.5%、「一文を短くする」が40.1%となっている。以下、「縦書きでも「128」のように、算用数字を用いる」（17.4%）、「横書きにする」（15.9%）、「疑問文の文末には「？」を用いる」（13.3%）、「段落の書き出しは1字分空ける」（12.7%）、「「！」や「：」「…」などの記号の使い方を工夫する」（8.4%）、「縦書きにする」（4.1%）、「横書きでも「百二十八」のように、漢数字を用いる」（2.9%）となっている。

【以下、64ページ、表11参照】

地域ブロック別に見ると、「読みやすくなるよう読点（「、」や「，」）を用いる」は、全ての地域で他の選択肢の割合を上回り、中でも九州で他の地域より高く64.6%となっている。「一文を短くする」は、関東（45.5%）と近畿（47.1%）で他の地域より高く4割台後半となっている。「縦書きでも「128」のように、算用数字を用いる」「横書きにする」は、北海道で他の地域より高く2割台後半となっている。

性別に見ると、「話題が変わるごとに段落を設ける」（男性 38.7%、女性 44.0%）は女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「読みやすくなるよう読点（「、」や「,」）を用いる」は、全ての年代で他の選択肢の割合を上回り、16～19 歳で最も高く 67.1%となっている。「話題が変わるごとに段落を設ける」は、20 代と 40 代で他の年代より高く 5 割強となっている。「一文を短くする」は、20～50 代で他の年代より高く 4 割台となっている。「「!」や「:」「…」などの記号の使い方を工夫する」は、16～19 歳で他の年代より高く 17.1%となっている。

性・年齢別に見ると、「読みやすくなるよう読点（「、」や「,」）を用いる」は、女性の 20 代を除く全ての年代で他の選択肢の割合を上回り、中でも男性の 16～19 歳で他の年代より高く 70.3%となっている。「話題が変わるごとに段落を設ける」は女性の 20 代と 40～50 代で、「一文を短くする」は女性の 30 代で、それぞれ他の年代より高く 5 割台となっている。「縦書きでも「1 2 8」のように、算用数字を用いる」は、男性の 16～19 歳と女性の 40 代以下で他の年代より高く 2 割台前半となっている。

表 11 国や自治体が情報を発信する際に配慮してほしいこと（2）表記や形式などについて

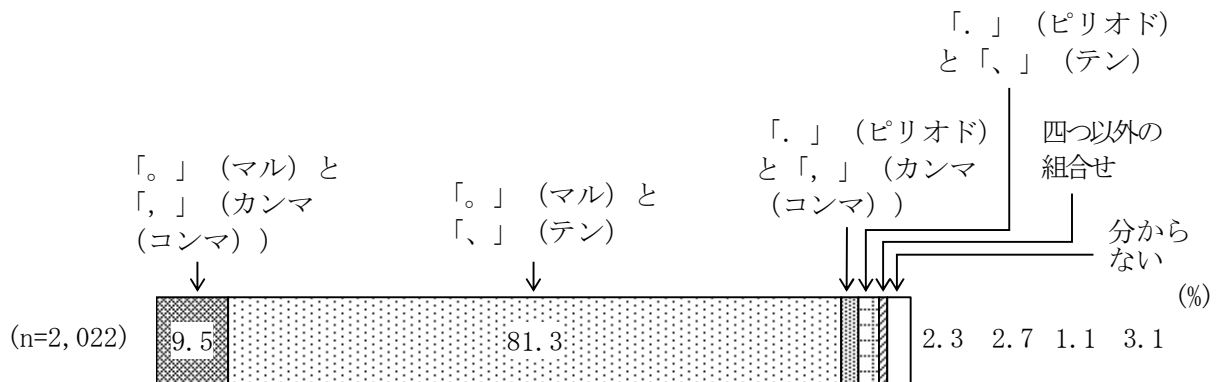
（地域ブロック別，性別，年齢別，性・年齢別）

(%)

	n	読みやすくなるよう読点（「、」や「，」を用いる	話題が変わるごとに段落を設ける	一文を短くする	縦書きでも「128」のように，算用数字を用いる	横書きにする	疑問文末には「？」を用いる	段落の出しは1字空ける	「！」や「：」「…」などの記号の使い方をする	縦書きにする	横書きでも「百二十八」のように，漢数字を用いる
総数	2,015	57.9	41.5	40.1	17.4	15.9	13.3	12.7	8.4	4.1	2.9
〔地域ブロック〕											
北海道	92	57.6	39.1	33.7	27.2	28.3	16.3	17.4	10.9	3.3	4.3
東北	150	48.7	30.0	28.0	10.7	16.0	12.0	13.3	11.3	3.3	2.7
関東	624	57.9	43.9	45.5	19.4	14.1	11.1	12.7	7.9	2.4	1.3
北陸	91	57.1	45.1	39.6	18.7	19.8	13.2	9.9	3.3	4.4	2.2
中部	308	61.0	42.2	39.0	18.5	18.2	13.6	13.6	13.0	7.1	3.9
近畿	327	54.4	43.4	47.1	13.5	14.4	10.1	12.5	6.7	4.0	4.3
中国	130	57.7	40.8	38.5	20.8	17.7	16.9	13.1	7.7	6.2	2.3
四国	56	58.9	37.5	35.7	14.3	12.5	17.9	8.9	12.5	5.4	5.4
九州	237	64.6	40.1	30.0	15.2	13.5	19.4	11.0	5.1	3.8	3.8
〔性〕											
男性	923	56.6	38.7	40.7	16.1	16.6	13.4	14.6	9.2	3.9	4.3
女性	1,092	59.0	44.0	39.6	18.5	15.4	13.1	11.0	7.8	4.2	1.7
〔年齢〕											
16～19歳	76	67.1	42.1	30.3	22.4	13.2	17.1	13.2	17.1	5.3	2.6
20～29歳	122	57.4	51.6	44.3	19.7	10.7	14.8	14.8	11.5	4.1	4.1
30～39歳	224	56.3	46.4	46.9	18.8	14.7	11.2	13.8	8.9	1.8	1.3
40～49歳	333	61.6	51.1	46.2	18.9	16.2	10.5	13.2	8.1	2.4	2.4
50～59歳	329	57.1	47.7	45.9	16.4	15.2	13.4	14.0	7.0	2.1	3.0
60～69歳	433	60.3	38.1	39.0	18.0	18.0	17.1	11.3	11.1	4.2	3.2
70歳以上	498	53.2	29.3	30.5	14.7	16.7	11.6	11.4	5.0	7.2	3.4
〔性・年齢〕											
男性・16～19歳	37	70.3	35.1	24.3	21.6	16.2	18.9	13.5	18.9	5.4	5.4
20～29歳	52	63.5	46.2	46.2	13.5	11.5	17.3	7.7	9.6	5.8	5.8
30～39歳	100	51.0	47.0	41.0	17.0	13.0	11.0	13.0	12.0	2.0	1.0
40～49歳	133	54.1	48.1	46.6	11.3	14.3	9.0	16.5	8.3	3.8	4.5
50～59歳	143	55.2	42.0	48.3	14.7	17.5	11.2	14.7	5.6	2.8	4.9
60～69歳	220	57.7	36.4	42.3	17.3	16.8	18.2	15.9	11.8	4.5	5.0
70歳以上	238	56.3	29.0	32.8	18.1	19.7	12.2	14.7	6.7	4.2	4.2
女性・16～19歳	39	64.1	48.7	35.9	23.1	10.3	15.4	12.8	15.4	5.1	-
20～29歳	70	52.9	55.7	42.9	24.3	10.0	12.9	20.0	12.9	2.9	2.9
30～39歳	124	60.5	46.0	51.6	20.2	16.1	11.3	14.5	6.5	1.6	1.6
40～49歳	200	66.5	53.0	46.0	24.0	17.5	11.5	11.0	8.0	1.5	1.0
50～59歳	186	58.6	52.2	44.1	17.7	13.4	15.1	13.4	8.1	1.6	1.6
60～69歳	213	62.9	39.9	35.7	18.8	19.2	16.0	6.6	10.3	3.8	1.4
70歳以上	260	50.4	29.6	28.5	11.5	13.8	11.2	8.5	3.5	10.0	2.7

## 4. 横書きの場合の句読点の使い方

問 4 [回答票] 横書きで文章を書くとき、句読点はどれを使いますか。よく使っていると思う組合せを一つ選んでください。情報機器等を用いて文書作成をするときも含みます。



横書きで文章を書くとき、句読点はどれを使うか、よく使っていると思う組合せを尋ねた。

「。」 (マル) と 「、」 (テン) が 81.3% で最も高く、以下、「。」 (マル) と 「、」 (カンマ (コンマ)) が 9.5%、「。」 (ピリオド) と 「、」 (テン) が 2.7%、「。」 (ピリオド) と 「、」 (カンマ (コンマ)) が 2.3% となっている。

【以下、次ページ、図4参照】

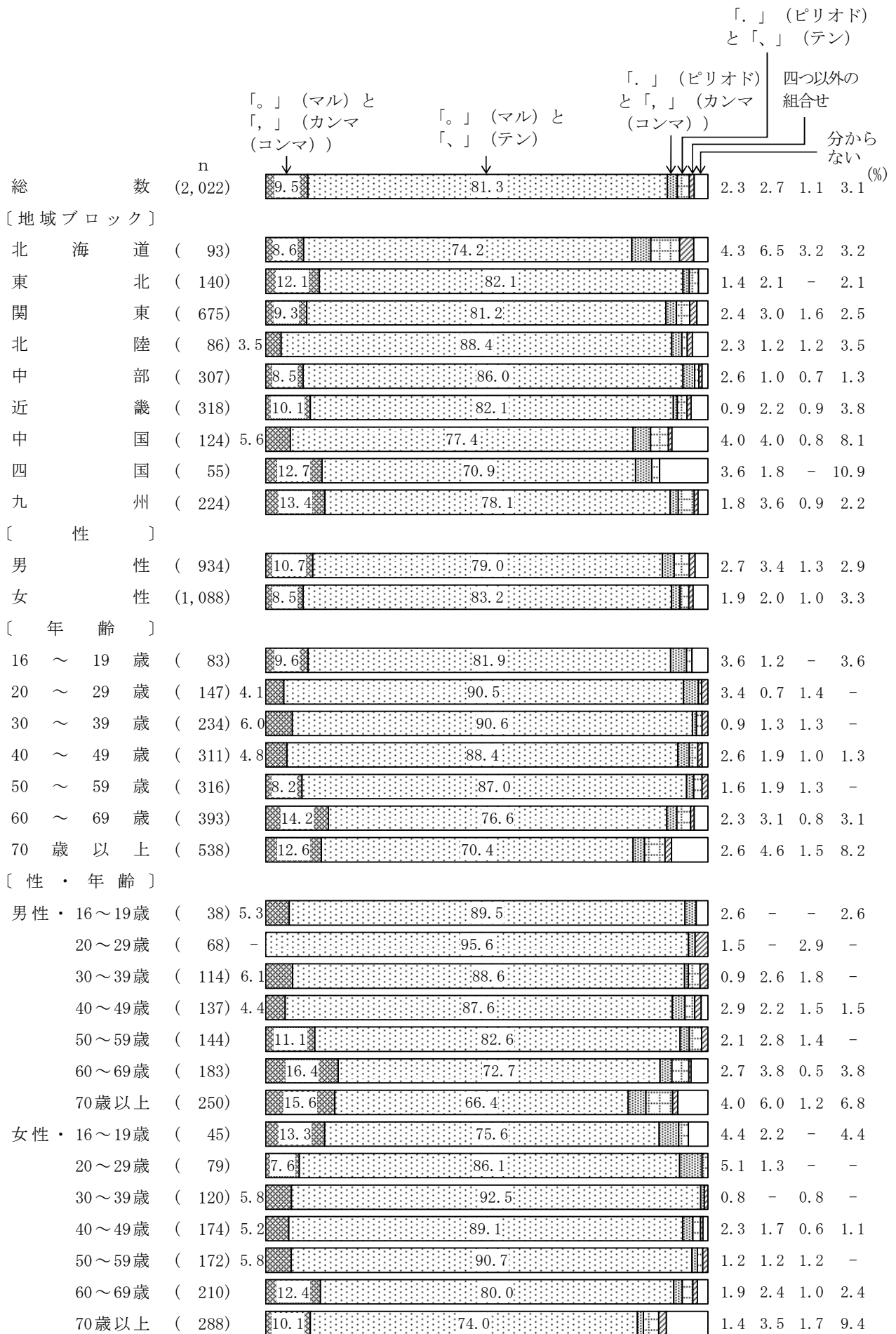
地域ブロック別に見ると、「。」 (マル) と 「、」 (テン) は、北陸 (88.4%) と中部 (86.0%) で他の地域より高く 8 割台後半となっている。

性別に見ると、「。」 (マル) と 「、」 (テン) (男性 79.0%、女性 83.2%) は、女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「。」 (マル) と 「、」 (テン) は、20～50 代で他の年代より高く 8 割台後半から 9 割台前半となっている。「。」 (マル) と 「、」 (カンマ (コンマ)) は、60 代以上で他の年代より高く 1 割台前半となっている。

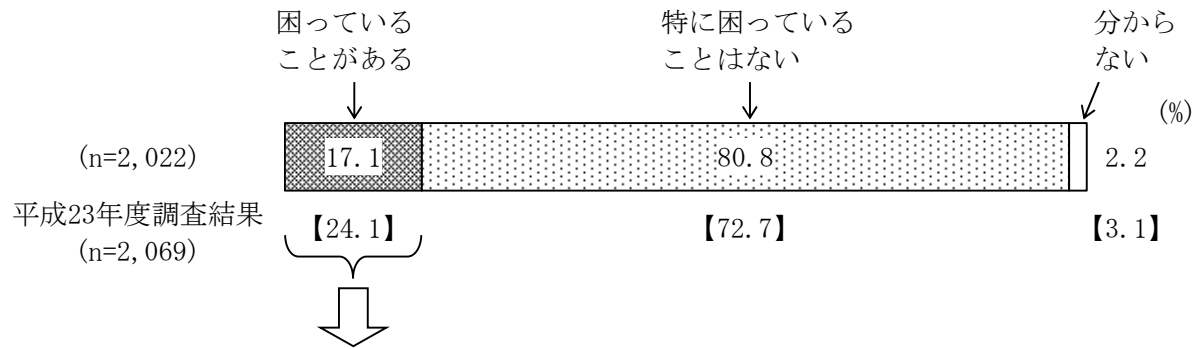
性・年齢別に見ると、「。」 (マル) と 「、」 (テン) は、男性の 40 代以下と女性の 20～50 代で他の年代より高く 8 割台後半から 9 割台後半となっている。「。」 (マル) と 「、」 (カンマ (コンマ)) は、男性の 60 代以上で他の年代より高く 1 割台後半となっている。

図4 横書きの場合の句読点の使い方（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別）



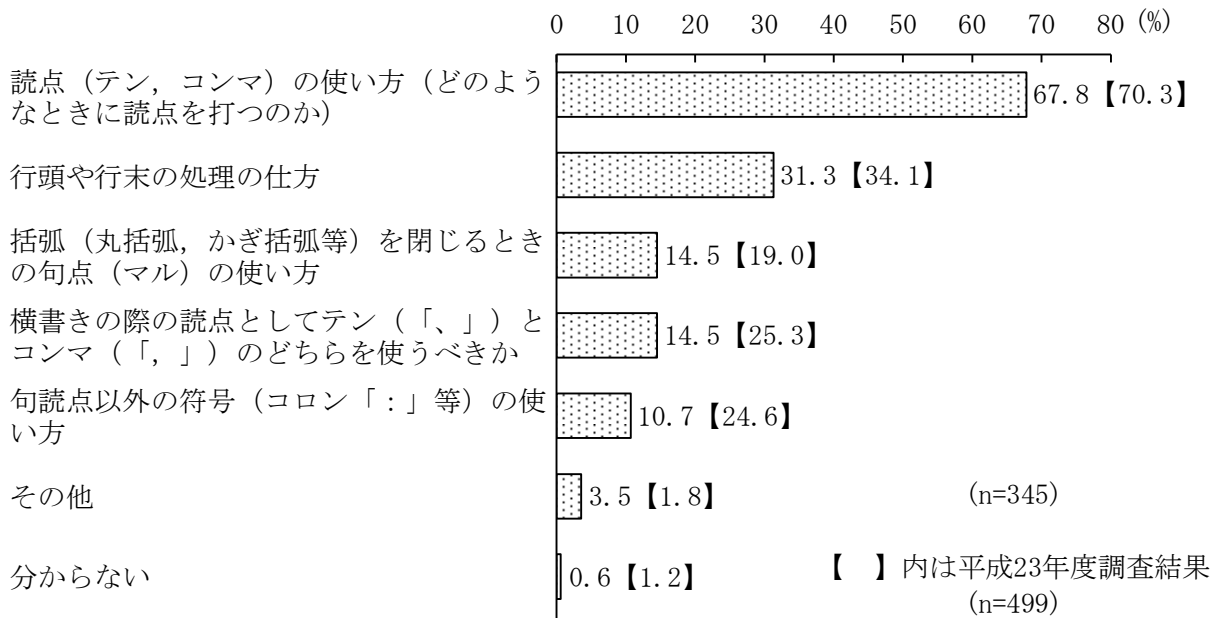
## 5. 句読点等の使い方に関して困っていること

問 5 [回答票] あなたは、文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、何か困っていることがありますか。それとも特に困っていることはありませんか。



(「困っていることがある」と答えた人に)

付問 [回答票] あなたは、文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、どのようなことで困っていますか。ここに挙げた中にあれば幾つでも選んでください。



文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか、それとも特に困っていることはないかを尋ねた。

「困っていることがある」が17.1%、「特に困っていることはない」が80.8%となっている。

過去の調査結果 (平成23年度) と比較すると、「困っていることがある」は7ポイント減少しているが、「特に困っていることはない」は8ポイント増加している。

【以下、次ページ、図5参照】

地域ブロック別に見ると、「困っていることがある」は、関東 (19.9%) と北陸 (25.6%) で他の地域より高くなっている。

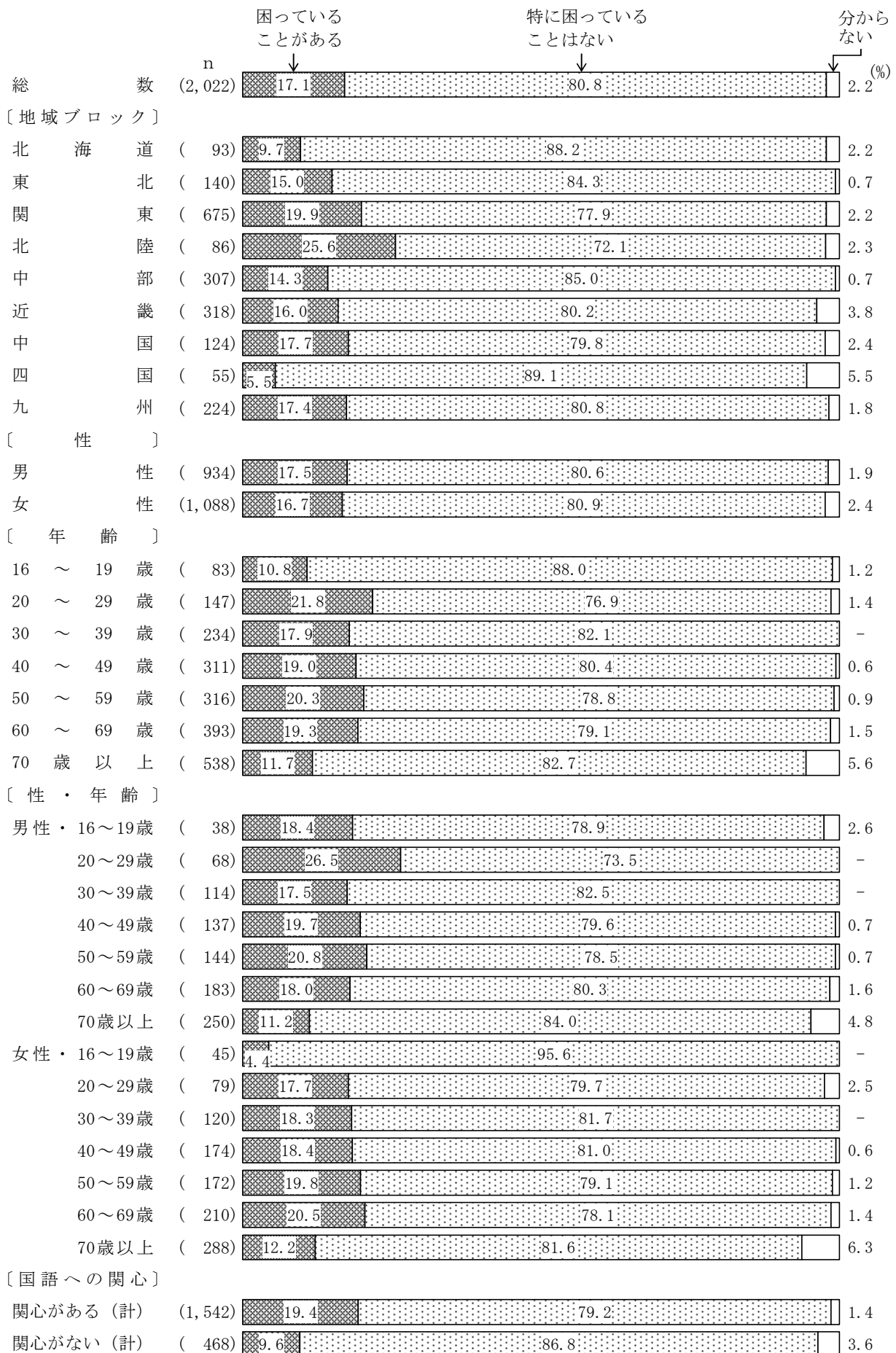
性別に見ると、男女で余り差は見られない。

年齢別に見ると、「困っていることがある」は、16～19歳と70歳以上で1割強となっているが、20～60代では約2割となっている。

性・年齢別に見ると、「困っていることがある」は、男性の20代で他の年代より高く26.5%となっている。一方、女性の16～19歳で4.4%、男女の70歳以上で1割台前半と他の年代より低くなっている。

国語への関心別に見ると、「困っていることがある」は、「関心がある (計)」 (19.4%) と答えた人で「関心がない (計)」 (9.6%) と答えた人より10ポイント高くなっている。

図5 句読点等の使い方に関して困っていることの有無（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別、国語への関心別）



### 句読点等の使い方に関して困っていること

句読点等の使い方に関して「困っていることがある」と答えた人（全体の17.1%）に、困っていることを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。【19 ページ参照】

「読点（テン、コンマ）の使い方（どのようなときに読点を打つのか）」が67.8%で最も高く、以下、「行頭や行末の処理の仕方」（31.3%）、「括弧（丸括弧、かぎ括弧等）を閉じるときの句点（マル）の使い方」「横書きの際の読点としてテン（「、」）とコンマ（「,」）のどちらを使うべきか」（各14.5%）、「句読点以外の符号（コロン「:」等）の使い方」（10.7%）となっている。

過去の調査結果（平成23年度）と比較すると、「句読点以外の符号（コロン「:」等）の使い方」が14ポイント減、「横書きの際の読点としてテン（「、」）とコンマ（「,」）のどちらを使うべきか」が11ポイント減となっているのを始め、他の具体的な選択肢も3～5ポイント減少している。

【以下、表4参照】

性別に見ると、男女で余り差は見られない。

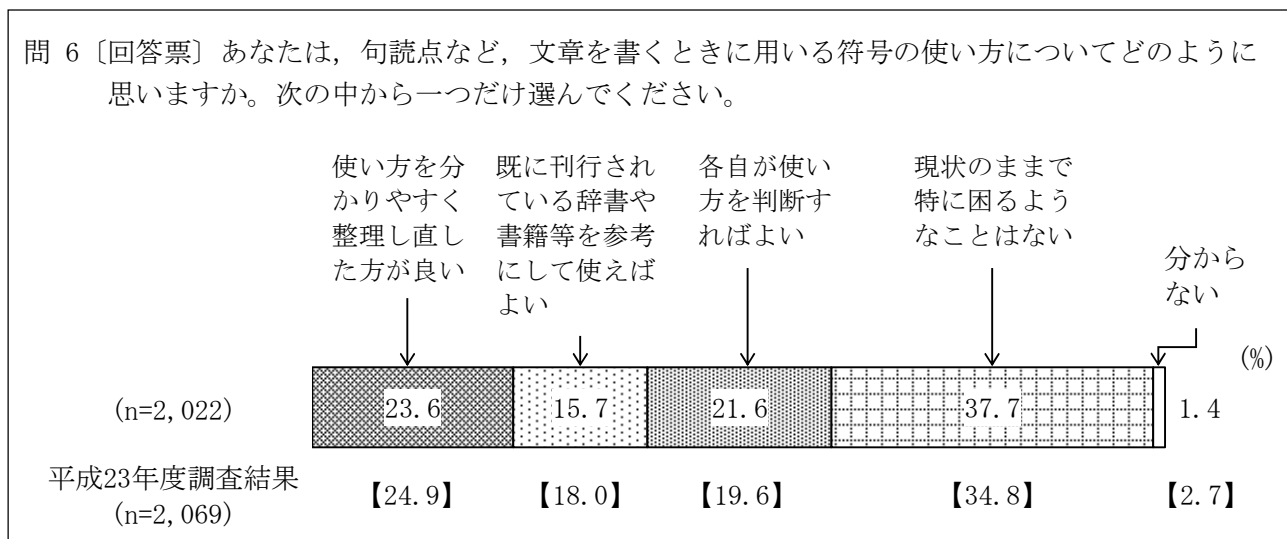
年齢別に見ると、「読点（テン、コンマ）の使い方（どのようなときに読点を打つのか）」は、全ての年代で5割を超え、他の選択肢の割合を上回っている。

表4 句読点等の使い方に関して困っていること（性別、年齢別）

		n	読点（テン、コンマ）の使い方（どのようなときに読点を打つのか）	行頭や行末の処理の仕方	括弧（丸括弧、かぎ括弧等）を閉じるときの句点（マル）の使い方	横書きの際の読点としてテン（「、」）とコンマ（「,」）のどちらを使うべきか	句読点以外の符号（コロン「:」等）の使い方		
総数		345	67.8	31.3	14.5	14.5	10.7		
〔性別〕									
男	性	163	68.1	35.0	16.6	13.5	11.7		
女	性	182	67.6	28.0	12.6	15.4	9.9		
〔年齢〕									
16	～	19	歳	9	55.6	44.4	-	11.1	-
20	～	29	歳	32	56.3	40.6	6.3	9.4	15.6
30	～	39	歳	42	71.4	28.6	11.9	14.3	14.3
40	～	49	歳	59	78.0	30.5	13.6	13.6	5.1
50	～	59	歳	64	65.6	34.4	14.1	12.5	14.1
60	～	69	歳	76	67.1	26.3	15.8	17.1	7.9
70	歳	以上		63	66.7	30.2	22.2	17.5	12.7



## 6. 符号の使い方についての考え



句読点など、文章を書くときに用いる符号の使い方についてどのように思うかを尋ねた。

「現状のままで特に困るようなことはない」が 37.7%と最も高く、以下、「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」(23.6%)、「各自が使い方を判断すればよい」(21.6%)、「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使えばよい」(15.7%)となっている。

過去の調査結果(平成 23 年度)と比較すると、「現状のままで特に困るようなことはない」「各自が使い方を判断すればよい」は 2~3 ポイント増加しているが、「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使えばよい」は 1~2 ポイント減少している。

【以下、次ページ、図 6 参照】

地域ブロック別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」は、北海道 (41.9%)、近畿 (43.4%)、四国 (45.5%) 他の地域より高く 4 割台となっている。「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」は、九州で他の地域より高く 29.0%となっている。

性別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」(男性 35.2%、女性 39.8%)は女性の方が高く、「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」(男性 26.2%、女性 21.3%)は男性の方が高くなっている。

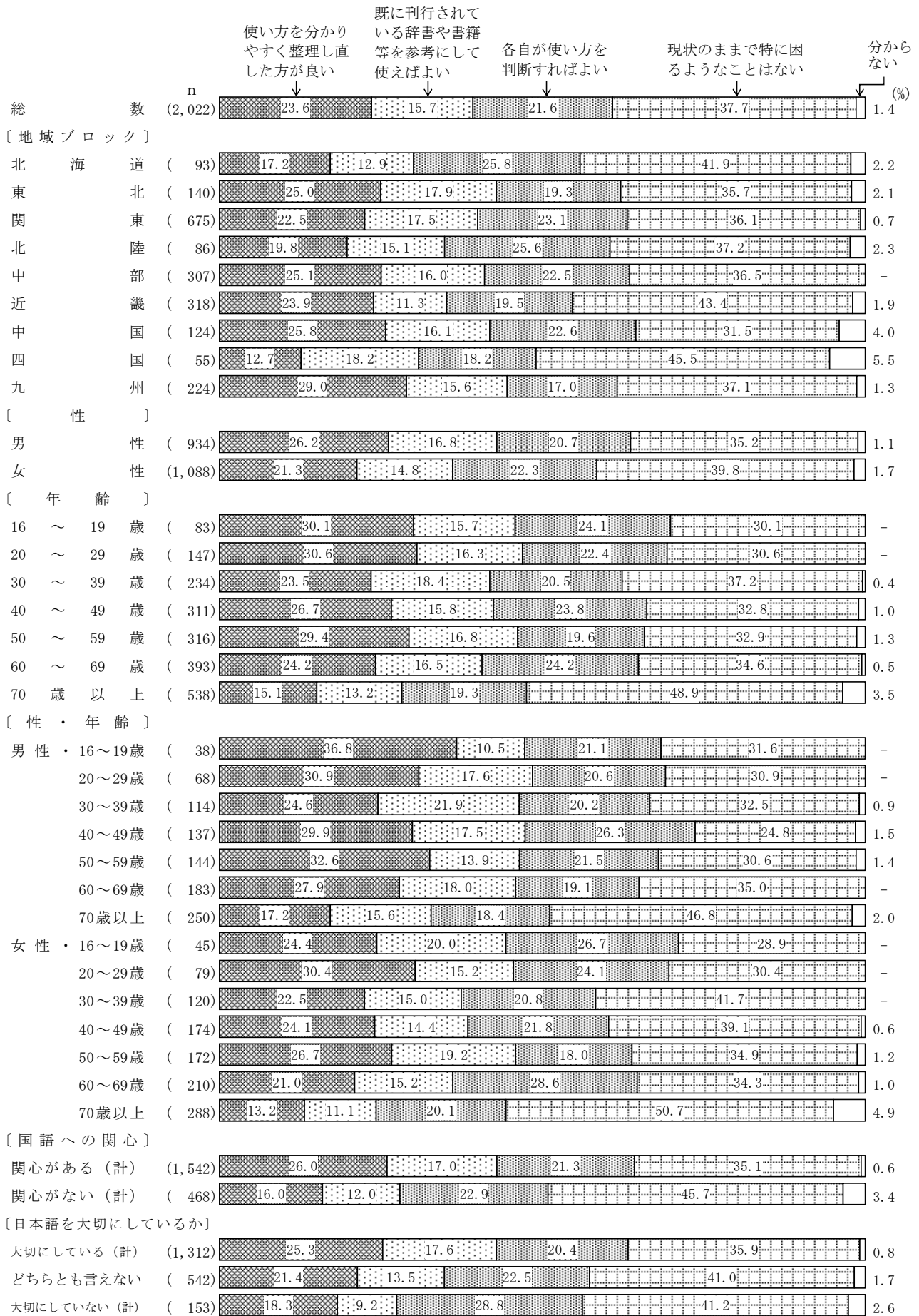
年齢別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」は、70 歳以上で他の年代より高く 48.9%となっている。「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」は、20 代以下と 50 代で他の年代より高く約 3 割となっている。

性・年齢別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」は、男女の 70 歳以上で他の年代より高く 4 割台後半から 5 割台前半となっている。「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」は、男性の 20 代以下と 50 代、女性の 20 代で他の年代より高く 3 割台となっている。「各自が使い方を判断すればよい」は、女性の 60 代で他の年代より高く 28.6%となっている。

国語への関心別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」は、「関心がない(計)」(45.7%)と答えた人で「関心がある(計)」(35.1%)と答えた人より 11 ポイント高くなっている。一方、「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使えばよい」は、「関心がある(計)」と答えた人で「関心がない(計)」と答えた人より 5~10 ポイント高くなっている。

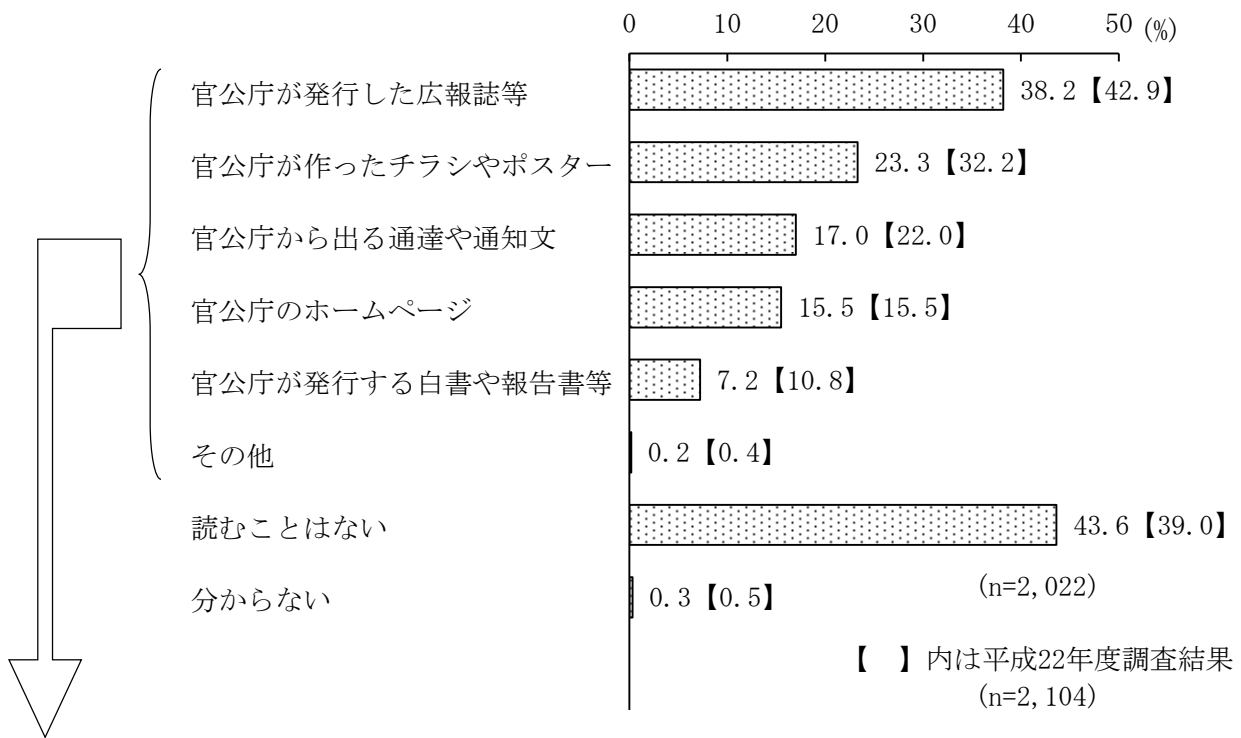
日本語を大切にしているか別に見ると、「現状のままで特に困るようなことはない」「各自が使い方を判断すればよい」は、「大切にしていない(計)」と答えた人で「大切にしている(計)」と答えた人より高くなっている。一方、「使い方を分かりやすく整理し直した方が良い」「既に刊行されている辞書や書籍等を参考にして使えばよい」は、「大切にしている(計)」と答えた人で「大切にしていない(計)」と答えた人より高くなっている。

図6 符号の使い方についての考え（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別、国語への関心別、日本語を大切にしているか別）



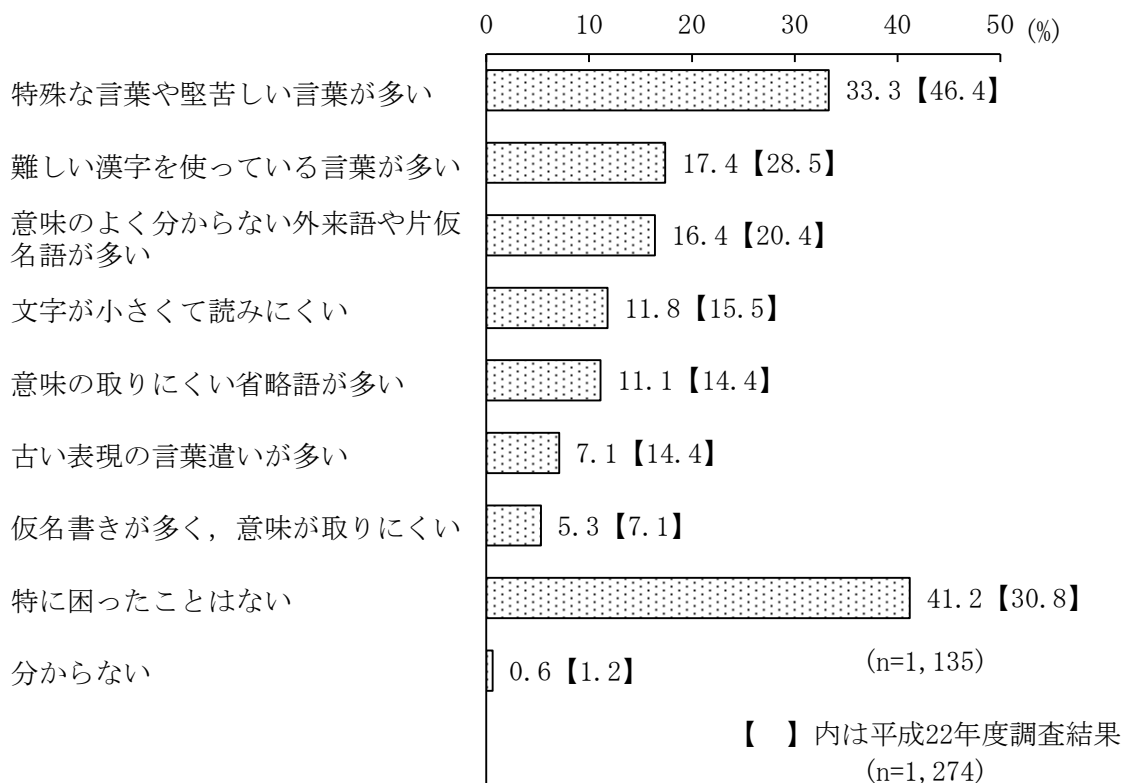
## 7. 官公庁などの文書で読むことがあるもの

問 7〔回答票〕あなたは、官公庁などが示す文書を読むことがありますか。読むことがあるものをこの中から幾つでも選んでください。



(一つでも選択した人に)

付問〔回答票〕あなたは、官公庁などが示す文書を読んでいて、何か困ったことはありませんか。この中から幾つでも選んでください。



官公庁などが示す文書で読むことがあるものを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。【24 ページ参照】

「官公庁が発行した広報誌等」が 38.2%で最も高く、以下、「官公庁が作ったチラシやポスター」（23.3%）、「官公庁から出る通達や通知文」（17.0%）、「官公庁のホームページ」（15.5%）、「官公庁が発行する白書や報告書等」（7.2%）となっている。一方、「読むことはない」と答えた人は 43.6%となっている。

過去の調査結果（平成 22 年度）と比較すると、「官公庁が作ったチラシやポスター」が 9 ポイント、「官公庁から出る通達や通知文」「官公庁が発行した広報誌等」が 5 ポイント、「官公庁が発行する白書や報告書等」が 4 ポイント、それぞれ減少している。一方、「読むことはない」は 5 ポイント増加している。

【以下、次ページ、表 5 参照】

地域ブロック別に見ると、「官公庁が発行した広報誌等」は、東北で他の地域より高く 55.0%となっている。「官公庁が作ったチラシやポスター」は、中国で他の地域より高く 33.9%となっている。「官公庁から出る通達や通知文」は、九州で他の地域より高く 24.1%となっている。「官公庁のホームページ」は、関東（18.1%）、近畿（17.9%）、中国（18.5%）で他の地域より高く 2 割弱となっている。

性別に見ると、「官公庁から出る通達や通知文」（男性 20.8%、女性 13.7%）、「官公庁のホームページ」（男性 19.7%、女性 11.9%）、「官公庁が発行する白書や報告書等」（男性 10.3%、女性 4.6%）は男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「官公庁が発行した広報誌等」「官公庁が作ったチラシやポスター」「官公庁から出る通達や通知文」は、16～19 歳から 60 代に掛けて、年代が上がるに従って割合が高くなっている。「官公庁のホームページ」は、40～50 代で他の年代より高く 2 割台前半となっている。一方、「読むことはない」は、60 代（28.8%）から 16～19 歳（78.3%）に掛けて、年代が下がるに従って割合が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「官公庁が発行した広報誌等」は、男女とも年代が高いほど割合が高くなる傾向が見られ、60 代以上で 4 割台後半から 5 割台後半となっている。「官公庁が作ったチラシやポスター」は男性の 60 代と女性の 50 代で、「官公庁から出る通達や通知文」は男性の 60 代で、それぞれ他の年代より高く 3 割台となっている。「官公庁のホームページ」は、男性の 30～60 代と女性の 50 代で他の年代より高く 2 割台となっている。一方、「読むことはない」は、男女ともに 60 代で最も低く、年代が下がるほど高くなる傾向が見られ、20 代以下で 7 割を超えている。

表5 官公庁などの文書で読むことがあるもの（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別）

(%)

	n	官公庁が発 行した広報 誌等	官公庁が 作ったチラ シやポス ター	官公庁から 出る通達や 通知文	官公庁の ホームペー ジ	官公庁が発 行する白書 や報告書等	読むことは ない
総 数	2,022	38.2	23.3	17.0	15.5	7.2	43.6
〔地域ブロック〕							
北海道	93	41.9	21.5	17.2	15.1	7.5	44.1
東北	140	55.0	27.1	14.3	5.7	8.6	33.6
関東	675	35.9	23.1	17.0	18.1	8.1	44.9
北陸	86	27.9	26.7	18.6	16.3	3.5	52.3
中部	307	36.5	17.6	12.1	11.7	5.2	47.6
近畿	318	35.2	24.2	17.6	17.9	7.9	43.4
中国	124	39.5	33.9	18.5	18.5	6.5	38.7
四国	55	47.3	10.9	10.9	5.5	1.8	45.5
九州	224	40.6	24.6	24.1	16.1	8.5	39.3
〔性〕							
男性	934	38.1	23.4	20.8	19.7	10.3	41.6
女性	1,088	38.2	23.2	13.7	11.9	4.6	45.2
〔年齢〕							
16～19歳	83	8.4	9.6	-	3.6	2.4	78.3
20～29歳	147	10.9	12.2	6.1	7.5	4.8	75.5
30～39歳	234	21.4	13.2	12.4	17.5	6.0	58.1
40～49歳	311	30.5	24.4	18.3	20.3	9.0	46.3
50～59歳	316	38.0	26.6	19.6	23.7	9.2	40.5
60～69歳	393	53.2	30.8	24.7	17.6	8.7	28.8
70歳以上	538	51.1	24.7	16.5	9.5	5.9	34.2
〔性・年齢〕							
男性・16～19歳	38	7.9	5.3	-	5.3	-	84.2
20～29歳	68	14.7	11.8	7.4	10.3	5.9	72.1
30～39歳	114	21.1	13.2	15.8	21.1	7.9	57.0
40～49歳	137	29.9	27.0	23.4	24.1	10.9	45.3
50～59歳	144	32.6	22.2	24.3	27.1	13.9	42.4
60～69歳	183	48.6	35.0	30.1	24.6	13.1	25.7
70歳以上	250	56.8	24.4	19.6	13.6	9.6	29.2
女性・16～19歳	45	8.9	13.3	-	2.2	4.4	73.3
20～29歳	79	7.6	12.7	5.1	5.1	3.8	78.5
30～39歳	120	21.7	13.3	9.2	14.2	4.2	59.2
40～49歳	174	31.0	22.4	14.4	17.2	7.5	47.1
50～59歳	172	42.4	30.2	15.7	20.9	5.2	39.0
60～69歳	210	57.1	27.1	20.0	11.4	4.8	31.4
70歳以上	288	46.2	25.0	13.9	5.9	2.8	38.5

## 官公庁などが示す文書を読んでいて困ったこと

官公庁などが示す文書で読むことがあるものを一つでも答えた人（全体の 56.1%）に、官公庁などが示す文書を読んでいて困ったことがあるかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。【24 ページ参照】

「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」が 33.3%で最も高く、以下、「難しい漢字を使っている言葉が多い」（17.4%）、「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」（16.4%）、「文字が小さくて読みにくい」（11.8%）、「意味の取りにくい省略語が多い」（11.1%）、「古い表現の言葉遣いが多い」（7.1%）、「仮名書きが多く、意味が取りにくい」（5.3%）となっている。一方、「特に困ったことはない」は 41.2%となっている。

過去の調査結果（平成 22 年度）と比較すると、「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」が 13 ポイント減少、「難しい漢字を使っている言葉が多い」が 11 ポイント減少など、具体的な選択肢の割合は全て減少しているが、「特に困ったことはない」は 10 ポイント増加している。

【以下、次ページ、表 6 参照】

地域ブロック別に見ると、「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」は、北陸（31.7%）と中国（25.0%）で他の地域より高く 2 割台後半から 3 割台前半となっている。「文字が小さくて読みにくい」は、北海道で他の地域より高く 23.1%となっている。「特に困ったことはない」は、中部（54.0%）と四国（56.7%）で他の地域より高く 5 割台となっている。

性別に見ると、「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」（男性 35.5%、女性 31.3%）、「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」（男性 18.0%、女性 14.9%）、「意味の取りにくい省略語が多い」（男性 12.5%、女性 9.8%）、「古い表現の言葉遣いが多い」（男性 9.0%、女性 5.4%）は、男性の方が 3~4 ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」は、40~50 代で他の年代より高く 4 割強となっている。「意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い」「文字が小さくて読みにくい」は、年代が高いほど割合が高くなる傾向が見られる。「古い表現の言葉遣いが多い」は、40~50 代で他の年代より高く 1 割強となっている。また、「特に困ったことはない」は、20~30 代で他の年代より高く 5 割台前半となっている。

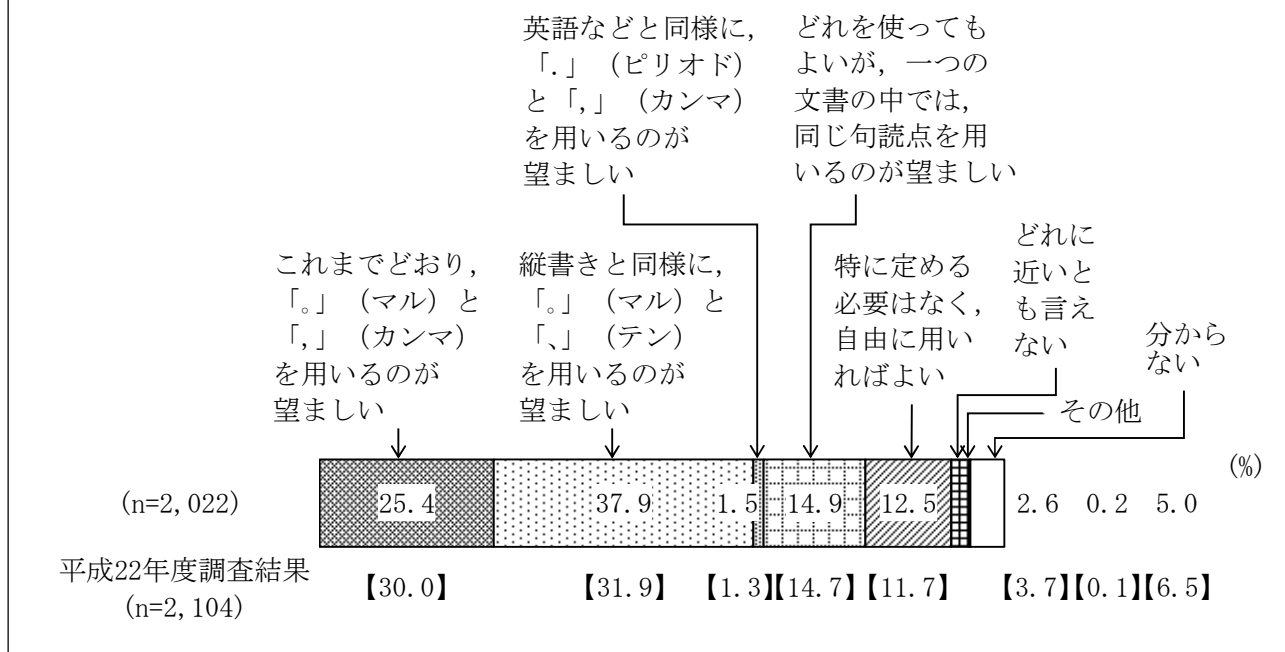
国語への関心別に見ると、「特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い」は、「関心がある（計）」（36.1%）と答えた人で「関心がない（計）」（20.9%）と答えた人より 15 ポイント高くなっている。一方、「特に困ったことはない」は、「関心がない（計）」（50.7%）と答えた人で「関心がある（計）」（39.2%）と答えた人より 12 ポイント高くなっている。

表6 官公庁などが示す文書を読んでいて困ったこと（地域ブロック別、性別、年齢別、  
国語への関心別）  
(%)

	n	特殊な言葉や堅苦しい言葉が多い	難しい漢字を使っている言葉が多い	意味のよく分からない外来語や片仮名語が多い	文字が小さくて読みにくい	意味の取りにくい省略語が多い	古い表現の言葉遣いが多い	仮名書きが多く、意味が取りにくい	特に困ったことはない
総数	1,135	33.3	17.4	16.4	11.8	11.1	7.1	5.3	41.2
〔地域ブロック〕									
北海道	52	34.6	15.4	15.4	23.1	13.5	3.8	11.5	36.5
東北	93	26.9	17.2	18.3	7.5	10.8	6.5	9.7	40.9
関東	370	33.8	19.5	15.4	10.5	10.8	8.9	4.6	40.3
北陸	41	34.1	24.4	31.7	4.9	12.2	7.3	2.4	36.6
中部	161	29.2	11.2	8.7	8.1	6.8	5.6	5.0	54.0
近畿	177	34.5	16.9	14.1	14.1	11.9	7.9	6.8	40.7
中国	76	42.1	15.8	25.0	14.5	15.8	6.6	1.3	31.6
四国	30	16.7	6.7	13.3	13.3	6.7	-	3.3	56.7
九州	135	37.8	21.5	21.5	15.6	13.3	6.7	3.7	34.8
〔性別〕									
男性	543	35.5	17.7	18.0	11.6	12.5	9.0	5.7	40.0
女性	592	31.3	17.1	14.9	12.0	9.8	5.4	4.9	42.4
〔年齢〕									
16～19歳	17	35.3	17.6	5.9	-	5.9	-	-	47.1
20～29歳	36	33.3	8.3	8.3	5.6	5.6	5.6	-	52.8
30～39歳	98	32.7	9.2	6.1	8.2	4.1	7.1	1.0	52.0
40～49歳	166	41.6	18.1	13.9	7.2	10.8	10.2	7.2	35.5
50～59歳	188	41.5	17.0	16.5	9.6	12.8	11.2	3.7	40.4
60～69歳	280	34.6	19.3	18.9	13.6	13.2	5.7	3.2	38.2
70歳以上	350	24.0	18.9	19.7	16.0	11.4	5.1	8.9	42.3
〔国語への関心〕									
関心がある（計）	930	36.1	18.0	16.8	11.5	11.5	7.2	5.4	39.2
関心がない（計）	201	20.9	14.9	14.9	12.9	9.0	7.0	5.0	50.7

## 8. 公用文や教科書に用いる句読点についての考え

問 8 [回答票] 昭和 27 年の内閣官房長官通知「公用文作成の要領」では、官公庁で作成する公用文は、左から右へ横書きし、句読点には、「。」(マル)と「,」(カンマ (コンマ))を用いることになっています。これに従い、原則として、官公庁で作る文書や学校の教科書などでは、横書きする際の句読点に「。」(マル)と「,」(カンマ (コンマ))を使用しています。あなたは、公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どのようにするのが良いと考えますか。この中から、あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。



公用文や横書きの教科書に用いる句読点について、どのようにするのが良いと考えるかを尋ねた。

「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」が 37.9%で最も高く、次いで「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」が 25.4%となっている。以下、「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」(14.9%)、「特に定める必要はなく、自由に用いればよい」(12.5%)、「英語などと同様に、「。」(ピリオド)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」(1.5%)となっている。

過去の調査結果(平成 22 年度)と比較すると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」が 6 ポイント増加しているが、「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」は 5 ポイント減少している。

【以下、31 ページ、図 7 参照】

地域ブロック別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」は、全ての地域で他の選択肢の割合を上回っている。中でも関東(41.5%)と北陸(46.5%)で他の地域より高く 4 割台となっている。

性別に見ると、男女で余り差は見られない。

年齢別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」は、50代で他の年代より高く 47.5%となっている。「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」は、16~19歳と 60代で他の年代より高く 3割台となっている。「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」は、20~40代で他の年代より高く 2割弱から 3割弱となっている。

性・年齢別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」は、男

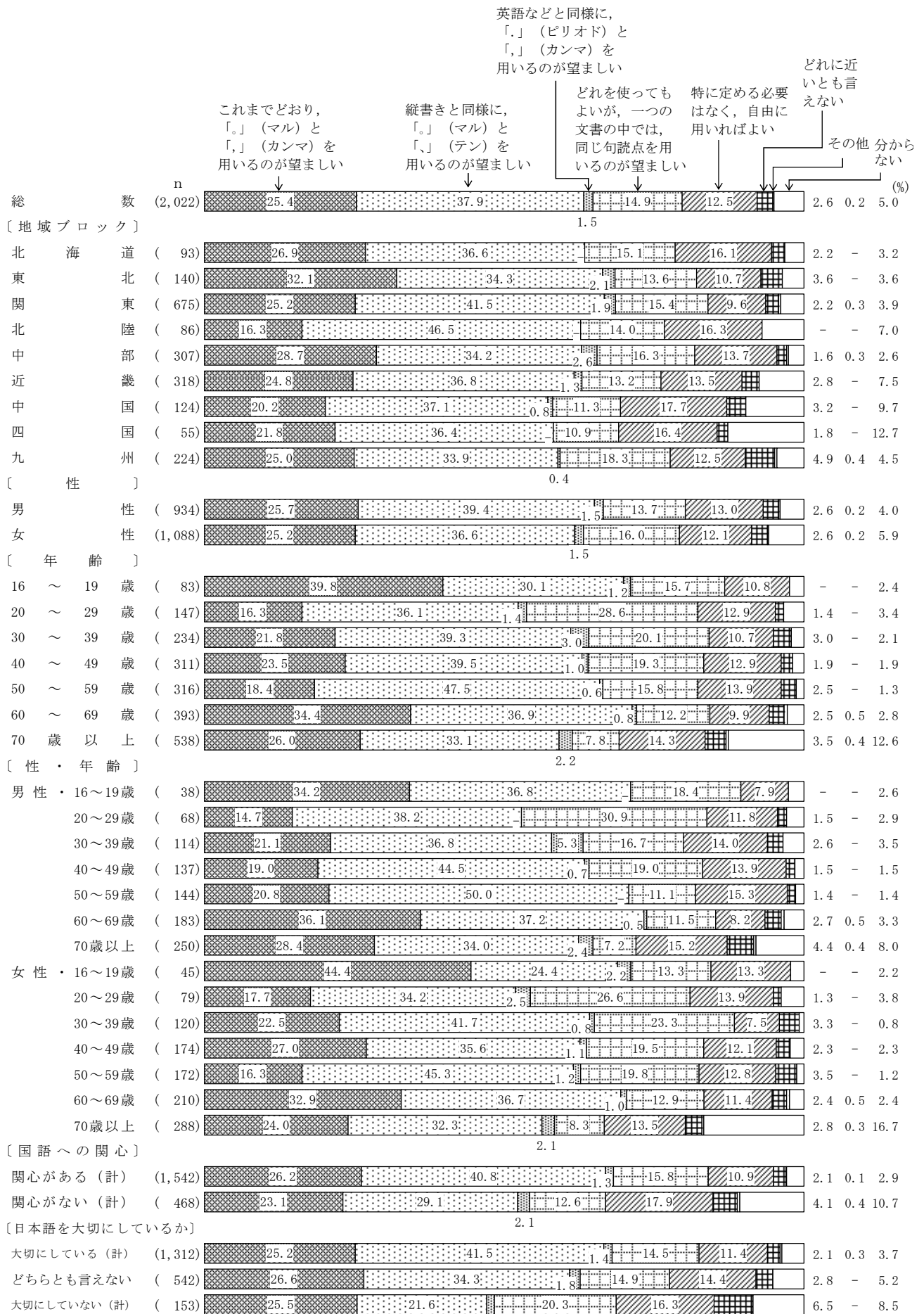


性の40～50代と女性の30代、50代で他の年代より高く4割台から5割となっている。「これまでどおり、「。」(マル)と「,」(カンマ)を用いるのが望ましい」は、男女の16～19歳と60代で他の年代より高く3～4割台となっている。「どれを使ってもよいが、一つの文書の中では、同じ句読点を用いるのが望ましい」は、男性の20代と女性の20～30代で他の年代より高く2～3割台となっている。

国語への関心別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」は、「関心がある(計)」(40.8%)と答えた人で「関心がない(計)」(29.1%)と答えた人より12ポイント高くなっている。一方、「特に定める必要はなく、自由に用いればよい」は、「関心がない(計)」(17.9%)と答えた人で「関心がある(計)」(10.9%)と答えた人より7ポイント高くなっている。

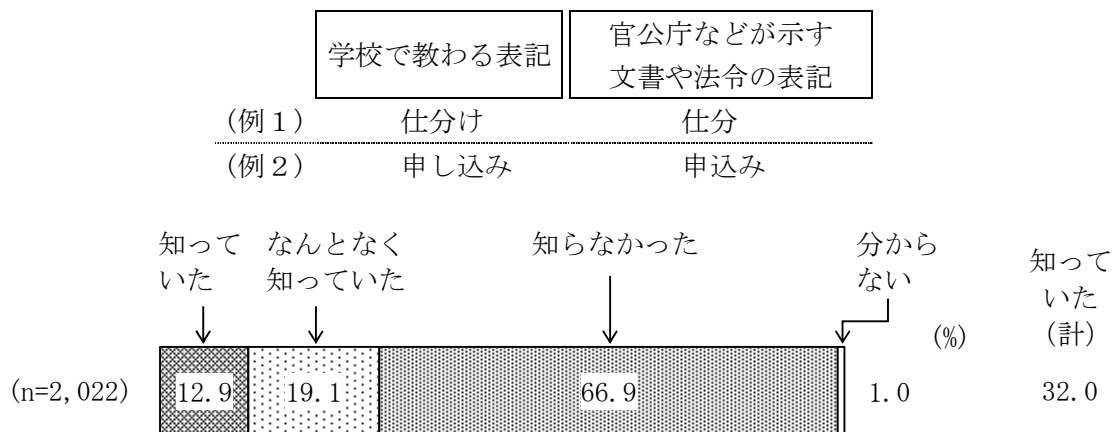
日本語を大切にしているか別に見ると、「縦書きと同様に、「。」(マル)と「,」(テン)を用いるのが望ましい」は、「大切にしている(計)」(41.5%)と答えた人で「大切にしていない(計)」(21.6%),「どちらとも言えない」(34.3%)と答えた人より高くなっている。

図7 公用文や教科書に用いる句読点についての考え（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別、国語への関心別、日本語を大切にしているか別）



## 9. 表記の仕方が異なる場合があることを知っているか

問 9 [回答票] 送り仮名の付け方など漢字の使い方について、学校で教わる表記の仕方と、官公庁などが示す文書や法令の表記の仕方が、例のように異なる場合があるということを知っていましたか。



送り仮名の付け方など漢字の使い方について、学校で教わる表記の仕方と、官公庁などが示す文書や法令の表記の仕方が、異なる場合があるということを知っていたかを尋ねた。

「知っていた」(12.9%)と「なんとなく知っていた」(19.1%)を合わせた「知っていた(計)」は32.0%となっている。「知らなかった」は66.9%となっている。

【以下、次ページ、図8参照】

地域ブロック別に見ると、「知っていた(計)」は全ての地域で2~3割台となり、「知らなかった」の割合を下回っている。

性別に見ると、「知っていた(計)」(男性32.4%、女性31.7%)は男女で余り差が見られないが、そのうち、「知っていた」(男性15.4%、女性10.8%)は男性の方が高く、「なんとなく知っていた」(男性17.0%、女性21.0%)は女性の方が高くなっている。

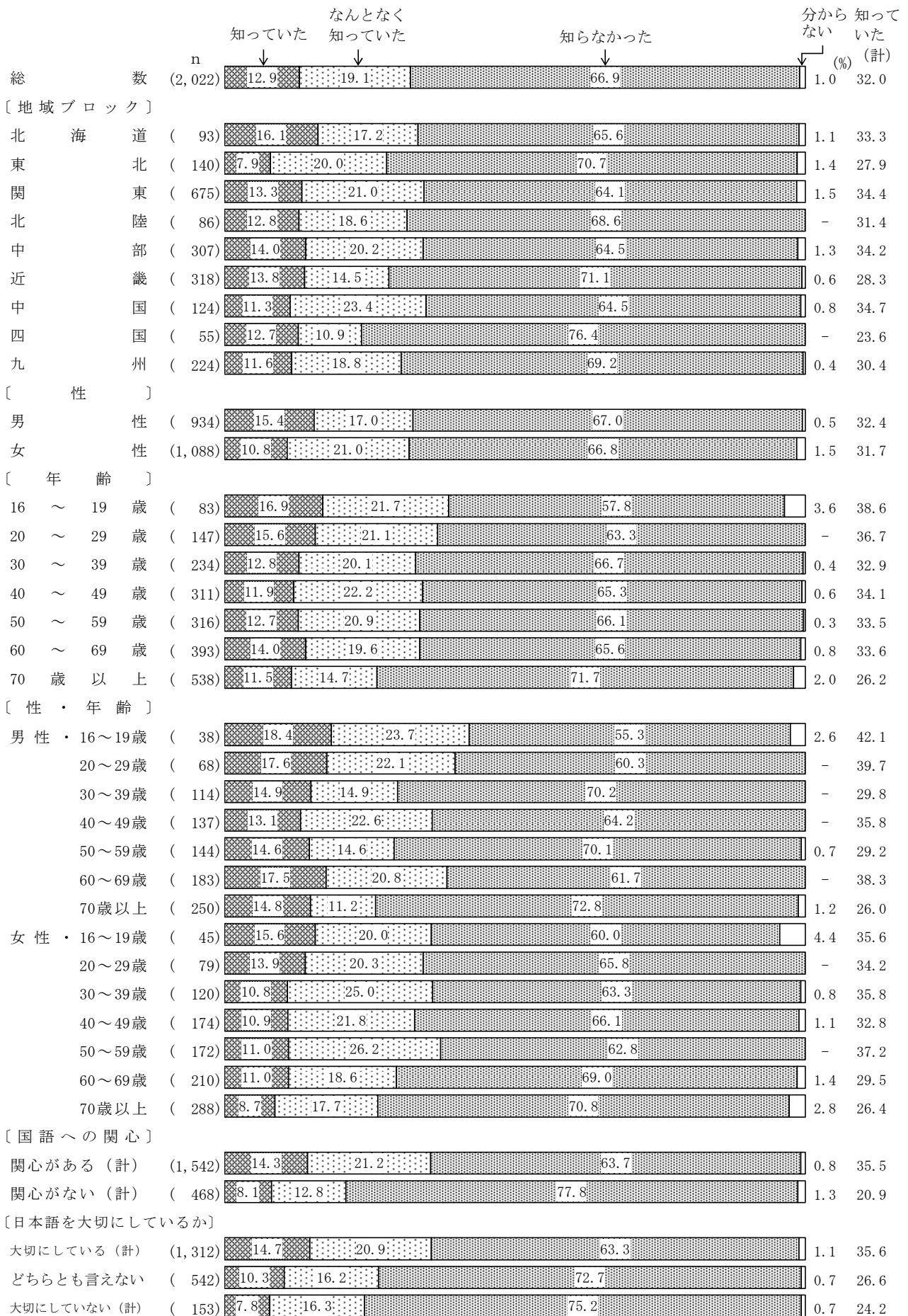
年齢別に見ると、「知っていた(計)」は、60代以下で3割台となっているが、70歳以上では26.2%となっている。

性・年齢別に見ると、「知っていた(計)」は、男女の70歳以上で他の年代より低く2割台半ばとなっている。

国語への関心別に見ると、「知っていた(計)」は、「関心がある(計)」(35.5%)と答えた人で「関心がない(計)」(20.9%)と答えた人より15ポイント高くなっている。

日本語を大切にしているか別に見ると、「知っていた(計)」は、「大切にしている(計)」(35.6%)と答えた人で「大切にしていない(計)」(24.2%)、「どちらとも言えない」(26.6%)と答えた人より高くなっている。

図8 表記の仕方が異なる場合があることを知っているか（地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別、国語への関心別、日本語を大切にしているか別）



10. どちらの書き方が良いと思うか

